

紹興宝巻研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00034743

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



紹興宝巻研究

付「双状元宝巻」校注影印

課題番号：17083019

平成18年度科学研究費補助金
特定領域研究／東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成
散楽の源流と中国の諸演劇・芸能・民間儀礼に見られる
その影響に関する研究（演劇班）・研究成果報告書

平成19年3月

研究分担者 上田 望
金沢大学文学部助教授

目 次

母たちの祈り－紹興「双元宝卷」試論－

1 はじめに	1
2 宣卷、儀礼の調査日程	2
3 宣卷の上演環境	3
4 「双元宝卷」について	5
5 結びにかえて	13

付録

I 「双元宝卷」の校注と影印

母たちの祈り－紹興「双元宝卷」試論－

上田 望

1. はじめに

明清以来の伝統を有する宗教芸能－宝卷は、鄭振鐸氏以後、俗文学研究資料として脚光を浴び、また明清時代の宗教史料としても活用されてきた。基礎資料の整備に関しては、李世瑜氏や澤田瑞穂氏などの浩瀚な目録解題は言うに及ばず、各地に保存される宝卷資料の紹介が相次ぎ、さらに各種の大型影印本シリーズ¹が刊行されるなど、20 世紀後半に飛躍的な進展があったと言える。

一方、宝卷のパフォーマンスと言うべき「宣卷」については、1950 年代からプロレタリア文化大革命終了まで冬の時代を余儀なくされたが、90 年代以降、上海近郊、江蘇省靖江、浙江省紹興など江浙各地での復活が日中の研究者によって調査、報告されている〔趙克忠 1993〕²〔鈴木健之 1994、1996〕³〔磯部祐子 1996、2004、2005、2006〕⁴。

筆者はこれらの先行研究に大きな示唆を受け、そのなかでも磯部祐子〔2005〕を手引き書として、同論考で紹介されている「新春班」（現在は紅白吹唱班、青春班とも称している）のリーダー、俞邦民氏の活動について 2006 年から 2007 年にかけて調査をおこない、いくつか貴重な宝卷の文献資料を入手した。本報告書ではその中から「双元宝卷」（以下、「双」と略す）を選んで影印・校勘テキストを公開し、あわせてこの地の宝卷の特徴などを考察し解題の代わりとしたい。また、前述の磯部氏の調査は、紹興の宣卷のみならず、鸚哥班、蓮花落などの芸能についても及んでおり、地域社会におけるこれら諸芸能の社会的機能についても詳細に考察された労作であるが、俞邦民氏の宣卷については 2000 年 3 月の調査から 6 年あまりの歳月が経過しており、上演状況などについて変化があるとしたら、一体どのような変化が見られるのか、比較しながら検討していく。

¹ 例えば現在利用できる影印本には張希舜等主編『寶卷初集』（山西人民出版社, 1994）、『明清民間宗教經卷文獻』（新文豐出版公司, 1999）、中國宗教歷史文獻集成編纂委員會編纂『民間寶卷』（黃山書社, 2005）などがある。

² 趙克忠「浦東陳行宣卷之形成与現況」（『上海曲芸芸術』1, pp23-29, 1993）

³ 鈴木健之「生きていた語り物「宝卷」－江蘇省靖江県「做会講經」の場合」（『東京学芸大学紀要』第3 部門社会科学 45, pp297-308, 1994）、「江蘇靖江の語り物「大聖宝卷」と「三茅宝卷」」（『説話・伝承学』4, pp38-52, 1996）

⁴ 磯部祐子「生き続ける宝卷(上)」(『東方』188, pp2-5, 東方書店, 1996/11)、「同(下)」(『東方』189, pp12-15, 東方書店, 1996/12)、「中国民間演劇の再燃」(『高岡短期大学紀要』19, pp159-170, 2004)、「中国民間演劇の現状－紹興の蓮花落・鸚哥班・宝卷を中心に」(『高岡短期大学紀要』20, pp221-234, 2005)、「浙江における灘簧系演劇の再興」(『富山大学人文学部紀要』45, pp141-154, 2006)

2. 宣卷、儀礼の調査日程

最初に簡単に 2006 年度の調査の日程を記しておく。

第 1 回調査 2006 年 9 月 15 日（調査者：上田 望）

【写真 1】

時間：2006 年 9 月 15 日 11:20～12:30

場所：紹興県福全鎮下俞村、俞邦民氏宅

備考：俞邦民氏への聴き取り調査（予備調査）

第 2 回調査 2006 年 10 月 13 日（調査者：上田 望）

【写真 2、3、4、5、6】

1)

時間：2006 年 10 月 12 日 18:30～23:30

場所：紹興県福全鎮下俞村、俞吉昌氏宅

N29° 58' 58.2" E120° 28' 12.7"

上演者：俞邦民（通称俞毛毛、三絃、二胡担当、福全鎮下俞村在住）、俞元二（本名不詳、胡琴担当、福全鎮下俞村在住）、沈老小（本名不詳、唱・木魚担当 紹興市越城区清水閘在住）、沈師母（本名不詳、唱担当、柯岩街道海山村在住）、鳳釵（本姓不詳、唱担当、福全鎮容山村在住）（敬称略）

上演演目：「双蓮宝卷」

施主名：俞吉昌氏

目的：金亜文氏（故人）の五七の法事

備考：五七の法事での宣卷を調査した。18:32 から 19:15 まで俞邦民氏が「道士」として遺影の前に遺族とともに並んで「悼詞」を読み上げ（【写真 2、3】）、読経を行う。引き続き、遺影の前の卓を左から俞邦民、俞元二、鳳釵、沈師母、沈老小の順で囲み、「双蓮宝卷」の宣卷が始まる（【写真 4】）。宣卷の途中で、20:05 に故人の「寿衣」を灶で消却する。20:22 から 20:32 まで休憩。20:32 から再開し、21:21 に上巻を歌い終わる。21:40 に下巻の宣卷開始。21:44 に俞氏が祭文を書いて灶で燃やす。22:31 から 22:40 まで下巻の途中で休憩。22:40 に再開し、23:25 に歌い終わる。今回の報酬は 250 元とのことである。

2)

時間：2006 年 10 月 13 日 18:32～22:12

場所：紹興県福全鎮龍尾山村邵貴生氏宅

N29° 59' 04.1" E120° 29' 17.3"

上演者：俞邦民、王阿牛（本名不詳、福全鎮下俞村在住）、王夏忠（福全鎮興聯村王七墩在住）、董百泉（福全鎮興聯村王七墩在住）、王志良（福全鎮興聯村王七墩在住）、雲根（本姓不詳、福全鎮興聯村王七墩在住）、信賢（本姓不詳、福全鎮梅峰村七賢橋在住）（敬称略）

上演演目：「楊家将」、「府場」、「宝蓮灯」、「打太廟」

施主名：邵貴生氏

目的：邵貴生氏の母親の葬儀

備考：邵貴生氏の母親（故人 享年 87）の葬儀（通夜）が行われ、その際に葬送の音楽及び紹劇の音楽と唱が遺影の前で奏された（【写真 5、6】）。演奏は 7 人の楽隊により、18:37～18:48、18:55～19:28（楊家将）、19:40～20:19（府場）、20:33～21:00（宝蓮灯）、21:08～21:32（打太廟）、21:41～21:56、22:02～22:12 と細切れに休憩を挟みながら行われた。この時の報酬は 315 元。

第 3 回調査 2006 年 9 月 15 日（調査者：上田 望）

時間：2007 年 3 月 9 日 14:20～19:30

場所：紹興県福全鎮下俞村、俞邦民氏宅

備考：俞邦民氏への聴き取り調査と資料収集

3. 宣卷の上演環境

次に、この福全鎮下俞村における宣卷を取り巻く環境について、福全鎮の概況、上演者、音楽、儀礼という角度から順に見ていきたい。



【図 1 浙江省紹興市福全鎮下俞村の衛星写真】（グーグルアースより）

紹興は悠久の歴史がある街であることは贅言を要しないが、この下俞村を含む福全鎮については、中華民国以前はどうであったのか不明である。

『紹興県志』⁵に拠れば、福全鎮は紹興の越城区から西南6キロ離れたところに位置し、中華民国時代、小さな村がいくつかあるだけで、定期市もなかったらしい。その後1950年7月に福全郷となり、1990年12月に福全鎮となり、現在は面積は39.82平方メートル、人口は1993年の時点で、10672戸、37318人となっており、人口密度は紹興の諸鎮の中では中位にランクされる。

下兪村は、福全鎮西部の農村で、すぐ隣にもう少し大きい容山村や龍尾山村がある。下兪の真ん中を洪溪（土地の人は下兪溪河と呼ぶ）が流れ、河沿いに人家や紡績業などの軽工業の工場、果樹園、養魚地などが広がる。村の南北と西には切り立った山が聳えており、特に北西の山にある豆腐尖は香山寺を擁する景勝地としても有名らしい。

今回、たびたび調査でお邪魔させていただいた宣卷の上演者、兪邦民氏（男性）は、1941年の生まれで2007年現在で66歳、もともと小学校の教師であったが、独習で紹劇や宣卷を学び、32歳の時に教師を辞めてこの世界に入ったという。

宣卷は、江蘇南通や如皋の童子戯のように、テキストを見ながら上演するため、『紹興市史』⁶に拠れば「ある程度基礎があれば愛好者でも演じることができ」、それゆえ「宣卷の芸人は厳格な師承関係は全くない」とのことであるが、兪氏の習得歴もほぼこれは当てはまると言えよう。ただ「基礎」と言っても、兪氏の場合は、二胡、三絃を初めとする多くの楽器が演奏できるほか、「双」の抄本を見ればわかるように達筆でもあり、加えて地元の人々が言うところの「道士」としての儀礼を簡単にではあるが執り行うことができるなど、かなりの訓練と経験が必要なのではないかと思われる。

また、兪氏の「班」の場合、地元の下兪村のメンバーは兪氏を除けば確認できたのは2名のみであり、多くのメンバーは福全鎮内外の村から仕事がある時だけ集まることになっている。

彼らの音楽については、やはり『紹興市史』に拠れば紹興宣卷には「宣卷調」と呼ばれる斉言句の唱詞に「南無阿弥陀仏」と続けて唱う曲調と、その他の「調腔」や「紹劇」などの演劇から吸収した曲調があることが知られているが、兪氏たちの宣卷も明確に二つの曲調を使い分けており、それらを彼らは「唸經」と「唱越劇」と呼び習わしている。

福全鎮、あるいは下兪村にどうして宣卷が伝わったかについては、兪氏に伺ってもはっきりしない。福全鎮に伝わる刊本の宝卷や上演者の少なさ、また福全鎮という街の歴史や規模から言って、紹興の他の地域から伝わってきた可能性が高いと思われる。

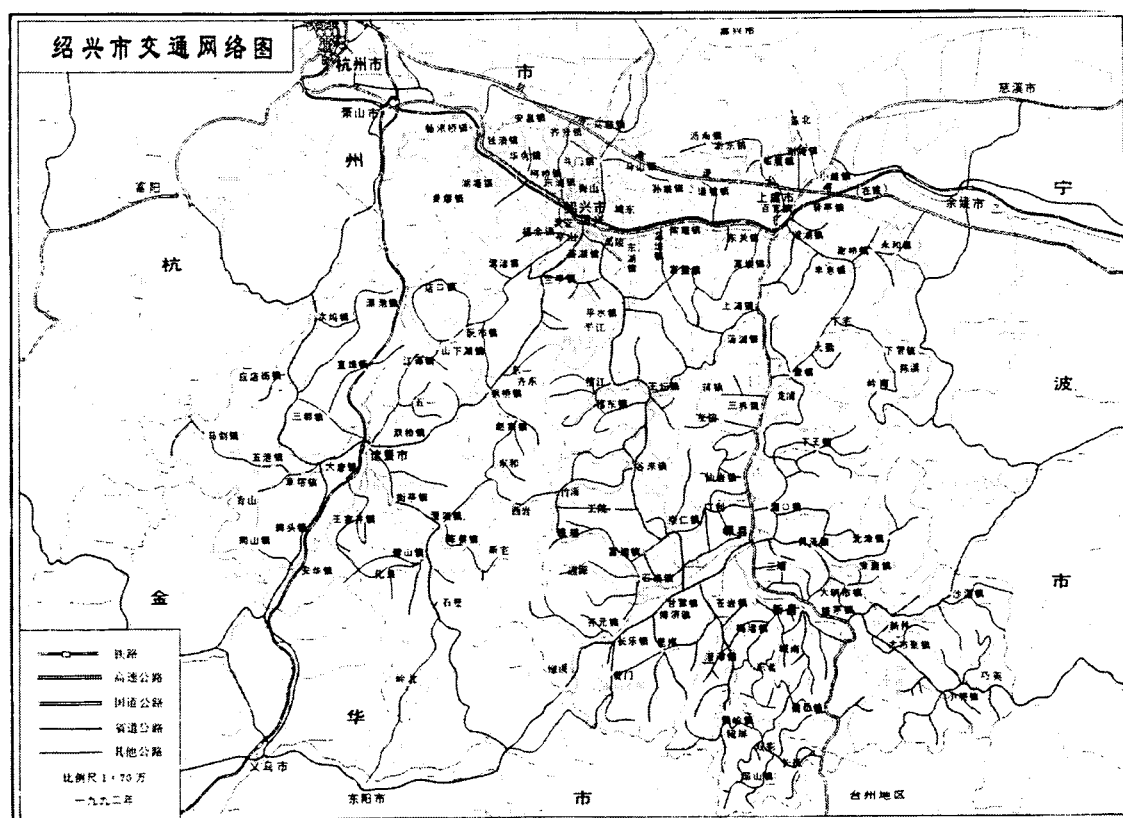
以下の現在の紹興市交通ネットワーク⁷を見てもわかるように、下兪村は陸路に関しては近くに幹線道路もなく、蕭山・杭州と紹興を結ぶ主要幹線からは離れており、下兪村から更に西に進むと行き止まりになって隣接する鎮（街道）には行けない。また水路に関しては蕭紹運河、寧紹運河など大きな運河から遠く、水路（洪溪）も少し東に行けば鳳石湖や漓渚江にアクセスできるが、西側は陸路と同じくダムが障碍となって、そこから先に進むことは難しい。下兪村は宝卷（宣卷）の発信地というよりも、この宗教芸能が最後に行き着いた

⁵ 『紹興県志』（紹興県志編委会編，中華書局，1999）第1冊 pp419-420，第5編「郷鎮」第10節「福全鎮」及び pp361-365 第4編「民族人口」第3章「人口」第1節「變動」参照。

⁶ 『紹興市史』（全6冊，紹興市地方志編委会編，浙江人民出版社，1996）p2295 卷36「戲曲曲芸」第4章「其他戲劇」第4節「紹興宣卷」参照。

⁷ 注5前掲『紹興市史』

場所と見るべきであろう⁸。



【図2 紹興市交通ネットワーク図】（『紹興市史』より）

4. 「双元宝卷」について

次に兪氏の所蔵する「双」について見ていきたい。

兪氏の所蔵本は、A4のノートに毛筆で筆写されたもので、上巻が32頁、下巻が43頁あり、総文字数は19301字（句読点含む）ある中編の作品である。兪氏はこれを先達の「道士」から筆写させてもらったのだと言う。磯部祐子氏〔2004〕によれば、紹興市鏡湖区靈芝鎮蒋家蚊（村）での宣卷では、「挑選」のために「沈香扇」、「双状元」、「双花」、

⁸ 紹興には宝卷がどのように伝わってきたのであろうか。これについては、これから多くの宝卷のテキストや音楽の異同を地域別に比較、整理しなければ答えは出てこないが、現在、中国で西北地方を除き「宣卷」が継承されている地域は、上海の商場鎮、江蘇省の靖江、蘇州近郊、浙江省紹興であり、また浙江では数十年前までは寧波にも宣卷があったという。これらはいずれも大きな河川や運河など水路のネットワークが張り巡らされている地域であり、明末、杭州一帯には運河の漕手を主体とする羅教の一派がいたことも知られているので、発信地が具体的にどこかはわからないが、水路を利用して江浙一帯に拡散していったのではないかという見通しを持っている。清代の民間宗教については、梁景之『清代民間宗教与郷土社会』（社会科学文献出版社、2004）pp28-33「“宝卷流民間宗教”的登場」を参照。

「何文秀」、「碧玉簪」などの宝巻が並べられ、多くは民国期のものとのことであり、俞氏所蔵本も民国期のテキストを抄写したものかもしれない。この地でも俞氏に限らず宣卷芸人はそれぞれ自分の宝巻を所蔵しており、2006年10月12日に調査した宣巻の時は、この俞氏の「双」ではなく、「沈老小」が持参した「双蓮宝巻」を使用していた。また福全鎮内にはこのほかにも「沈香扇宝巻」上下、「双英宝巻」上下などが伝わっていることが確認されている。

これらの宝巻は繰り返すがいずれも、抄本であり、演唱用のテキストとしての性格が強く、読み物としては流通していないように見受けられる。たとえば磯部祐子氏も指摘しているように、「双状元」もスラッシュこそ入っていないが、白の役割分担がそれぞれ、「悲」（旦、つまり張素珍）、「付生」（李天保、のちには直接「李」と表記される）、「二生」（張素珍の双子の息子の徐昇と范瑞祥、のちに「徐」「范」と表記）など読みやすいように赤いボールペンで記されており、個人が案頭で楽しむためのものには見えない。

「双状元」というタイトルでは、「梁山伯祝英台」故事が有名であるが、これと同じ内容の作品は管見の限り、見当たらないため、以下に梗概を記す。

巻1

北宋の仁宗皇帝の治世、山東省歴城県李家荘の張素珍は、度重なる天災と飢饉に見舞われ、父母や夫を亡くし、双子の男子を連れて故郷を離れる。その流浪の旅において、彼女は孤児の李天保を養子とし、母子四人で河南省へと流れ着き、金山が営む宿屋に泊まる。しかし、食事にも事欠くため、みんなが生きていくために宿に養子の李天保と双子の一人を残し、もう一人の子を街へ売りに出掛ける。

河南省太平村の徐国棟は学問を教えながら妻の徐氏と静かに暮らしていたが、五十を超えても子宝に恵まれず、憂さ晴らしに街をぶらついていたらで張素珍に出遭い、銀50両で子供を引き取り、将来、子供が大きくなって張素珍と再会したときに親子であることがわかるようにと、それぞれ片方ずつ子供の靴を取っておくことにする。

また、まもなく五十歳になる范忠は宝飾品販売を生業とし、家は裕福ではあったが、妻徐氏（後では李氏）との間に子供がなかった。范忠は金山の宿屋に家賃を取り立てにいった時に、張素珍が宿に残した双子のもう一人に目をつけ、無理矢理家に連れてかえってしまう。

子供を徐国棟に売って宿に戻ってきた張素珍は、李天保からもう一人の息子も連れ去られてしまったことを聞き、悲嘆の涙に暮れる。それに追い討ちをかけるように、夜、宿屋で火事が起き、李天保とも離ればなれになってしまう。

男の子を家に連れ帰った范忠は妻と相談し、妻が産んだということにして、瑞祥と名付けて育て、十六年が経過する。

一方、徐国棟に引き取られた子のほうは、徐昇と名付けられ、十六年後に学問を身につけた若者に成長した。徐昇はある日、科挙を受験するために都に上りたいと徐国棟に申し出、これをよい機会と徐国棟は徐昇の生い立ちの秘密を聞かせる。徐国棟は、科挙に合格すれば実母を見つけ出す術もあるであろうと、ショックを受けた息子を慰め、励ます。

范家の方では、范忠は身罷っていたが、徐氏が范瑞祥を十六年間、しっかりと育てあげた。ある日、范瑞祥も上京して科挙を受験したいと申し出る。徐氏は、頑張るよう息子を

励まし、伝家の宝である「夜明珠」を瑞祥に渡し、功名を立てたら皇帝に献上すると言う（彼の生い立ちの秘密はこの時点ではまだ明かされていない）。

一方、二人の実子を失い、養子の李天保ともはぐれた張素珍は、息子たちとの今生での再会を夢見ながら物乞いをして生き延びる。

（この後に46句の「吉利話」を並べた物乞いの唱詞が続く）

巻2

張素珍と生き別れた養子の李天保も物乞いをしながら露命をつなぎ、都へとやってくる。

平南王羅定方は、妻邴氏との間に十六歳になる一女がいたが、よい婿が見つからず、悶々として街を巡っている時にたまたま李天保を見かけ、天保のように容姿端正な若者がどうして物乞いをしているのか訝り、呼び寄せて事情を問いたす。李天保から事情を聞いて、羅定方はますます彼を気に入り、娘の婿にするために李天保を王府に連れて帰る。夫人もこの縁談を喜び、羅定方は夫人の勧めですぐに仁宗皇帝に上奏し、李天保は二省巡按に封じられる。

羅定方が宮中から戻ると、ただちに李天保と王の女との婚礼が執り行われるが、新婚初夜の時、鬱々として楽しまない様子の李天保に王の女は理由を問い出す。李天保から秘密を打ち明けられた王の女は人を派遣して養母を捜すようにと勧める。翌日、二人は任地へと赴く。

翰林院の老太師、吉天祥は科挙の考官をつとめ、その時に受験した徐昇は見事に合格する。一方、范瑞祥は上京が遅れ、試験に間に合わなかったため、吉太師の駕籠をさえぎり、家宝の夜明珠を献上する。事情を聞いて吉太師は范瑞祥が翌日、仁宗皇帝の面接試験を受けることを認める。仁宗皇帝の御前で見事な文章を書き上げた范瑞祥も合格となり、徐昇は「新科状元」、范瑞祥は「献宝状元」となる。

吏部の職にあった王文林は、妻に先立たれ、今年十六になる娘、雲霞の縁談のことで頭を悩ませていた。そこへ状元となった徐昇が挨拶に訪れる。徐昇と話して彼が独身であることを知り、娘との結婚を打診し、徐昇も承諾したため、すぐにその日のうちに華燭の典を挙げることになる。我が身の幸せを振り返り、実母の身を案じて楽しまない様子の徐昇を見て、新婦の王雲霞はあれこれと問い尋ねて心配する。徐昇は秘密を話し、雲霞は人を遣わして実母を捜すよう勧める。

張素珍は、子供たちを探して十八年間、辛酸をなめる。范瑞祥は故郷へ戻って祖先の霊に合格を報告すべく都を下る。その途上で物乞いをしている実母張素珍に出遭い、不思議な感覚を覚えたため、彼女になぜこんなに悲しんでいるのか理由を尋ねる。彼女の身の上話に同情した范瑞祥は実母とは知らずに家に連れて帰り、母親の徐氏（ここからは李氏になっている）も張素珍を雇い人として范家に置くことを許す。母親は范瑞祥のために太守、金延の娘との縁談を進める。

（ここで宣卷は一時休止することになっている）

さて、母親は才色兼備の金太守の娘、金臘との縁談をとりまとめ、婚礼の儀が執り行われる。しかし、実母のことが気がかりな范瑞祥は新婚夫婦の洞房に入らない。

さて、徐家では、徐国棟の還暦を祝うため范家に招待状を出す。范瑞祥は、徐家に張素珍を遣わし、贈り物を届けさせる。徐家の門をくぐった張素珍は、徐国棟に会って十八年

前のことを思い出し、あれこれと徐に尋ね確証を得た彼女は、自分が十八年前に子供を売った張素珍だと名乗り出る。証拠の靴を見て、徐国棟も納得し、なぜ彼女が范家の下働きをしているのか尋ねる。さらに徐国棟は徐昇を呼んで来て実母と対面させ、親子は再会を果たす。徐父子はこのまま徐家に留まるように勧めるが、張素珍は范家の恩義に報いるためにも筋を通そうと、一旦、范家に戻ることにする。新郎范瑞祥との仲がうまく行かずいらいらが募っていた金臘（嬌）は、張素珍の帰りが遅かったことに腹を立て、彼女の顔にわざと熱い薬湯をかけて火傷させる。

涙を流している張素珍が靴を手に行っていることに気付いた徐氏は、その由来を尋ね、張素珍は事情を説明する。彼女が瑞祥の実母であることを知った徐氏は、瑞祥を呼び出して親子の名乗りを上げさせ、一同涙を流す。妻の金臘も呼び出して張素珍に挨拶をさせる。金臘は自分から過ちを詫び、張素珍は彼女を許す。

（ここで宣巻は再度、一時休止となっている）

翌日、徐昇は自ら范家に母親を迎えにやってくる。しかし、范瑞祥も張素珍は自分が十八年前に生き別れになった母親だと主張して、張素珍を徐昇側に渡そうとはしない。そこで、二人は巡按府に赴き、白黒をつけることにする。巡按の職にあった李天保は徐、范二人の訴えを聞き、証拠の靴を見て、この二人が自分の弟であることに気づき、養母が見つかり、また二人の弟が状元となったことを心密かに喜ぶ。真相を究明するため李天保は張素珍を召し出し、自分が李天保であると名乗り出、母子四人で再会を喜び合う。翌日、李天保は皇帝にこの一件を上奏し、張素珍は重義夫人、徐国棟は七品侍郎、徐氏（李氏）は真節夫人、王雲霞は賢徳夫人、金臘（嬌）は一品夫人に封ぜられる。

煩瑣を厭わず紹介したが、内容は登場人物が最後には科挙に合格して大団円という慶祝劇的なものである。

だが、この「双」は果たしてそれだけ、なのであろうか？ この作品の主題と文体の特徴を探るために、師茂樹氏の開発したプログラム、Unicode 対応 N グラムツール morogram (<http://www.ya.sakura.ne.jp/~moro/resources/ngram/morogram.html>) 及びその極悪氏が開発した Windows 実行形式版 (<http://hpcgil.nifty.com/dune/gwiki.pl?p=morogram>) を利用して筆者が作成した芸能の電子テキストから、出現頻度の高い文字を探ってみることにしたい。

1 使われている総漢字数

「双」のテキストは、句読点などを除くと全部で 17,833 字から構成されている。使われている単漢字の種類は全部で 1300 字（種類）であり、うち、2 回以上重複して出現する漢字は 970 字（累計 17503 字）、1 回のみ現れる漢字が 330 字ある。

これだけでは特徴がわかりにくいので、紹興と隣接する江浙の他の語り物⁹と比較してみ

⁹ 「売青炭」は『越劇伝統説唱 落地唱書』（張繼舜搜集整理，浙江文芸出版社，1992）pp121-135、「九郎借馬鬧東海」は『江蘇南通童子祭祀儀式劇本』（曹琳校注，臺北市施合鄭基金會，民俗曲芸叢書，2000）pp168-174 を参照している。「兄妹分裙」は如皋の童子戯芸人、冒建華氏が 1995 年に抄写したテキストを利用し、電子化したものである。如皋の童子戯については、上田望『中国伝統芸能の音曲と歌辞の関係についての計量的研究－越境する伝統芸能 江蘇如皋童子戯の事例研究から』（平成 16-17 年度科学研究費補助金基盤

たのが次の表である。

【表 1 各種芸能で使用されている単漢字数の比較】

	双状元宝卷 (浙江紹興)	売青炭 (浙江? 州)	花名宝卷 (浙江寧波)	九郎借馬 (江蘇南通)	兄妹分裙 (江蘇如皋)
総字数	17833	3193	1094	4017	9547
単漢字数(複数回)	970	463	196	529	781
下段: 累計字数	17503	2640	896	3616	9205
単漢字数(1回)	330	553	198	401	342
単漢字数(合計)	1300	1016	394	930	1123

「売青炭」は、浙江省嵊州市(旧時、嵊県)に伝承される「落地唱書」と呼ばれる講唱芸能の一作品である。「落地唱書」は越劇の形成にも大きな影響を与えたと言われる。「花名宝卷」は浙江寧波の天童寺で販売されていたもの。「九郎借馬鬧東海」は江蘇省南通市で継承される童子戯の1篇、「兄妹分裙」は江蘇省如皋市の童子戯の演目である。

各作品の題材も分量(総字数)も異なるため、単純に比較はできないかもしれないが、「双」で使われている単漢字が全部で1300字(種類)というのは、作品の長さの割に特に多いという訳でもなく、これらの講唱芸能の中では平均的な難しさであると言えよう。もちろん、小説、特に長篇小説などと比べれば、読者(聴衆)にとってははるかにわかりやすいものであることは言うまでもない。

【表 2 各種芸能で使用頻度の高い単漢字(上位30字)】

	双状元		売青炭		花名宝卷		九郎借馬		兄妹分裙	
1	我	397	白	85	人	30	龍	79	人	206
2	人	348	儂	57	不	23	一	66	一	143
3	兒	262	我	48	花	18	馬	61	了	141
4	來	259	唱	46	是	17	不	55	不	140
5	不	206	來	45	有	17	的	54	來	123
6	你	204	一	38	月	15	來	47	我	118
7	一	199	勿	38	無	13	九	41	親	100
8	娘	193	哩	37	開	13	了	41	家	94
9	是	176	哥	33	女	13	你	39	你	89
10	上	162	小	33	子	13	到	38	心	89
11	子	155	好	31	家	11	海	38	是	88

研究(C)研究成果報告書, 2006)を参照されたい。なお、これらの文字データ入力に関しては林志英氏(北京大学中文系碩士課程在籍、金沢大学人間社会環境研究科特別研究学生)の手を煩わせた。ここに名前を記し謝意を表する次第である。

12	生	152	要	29	敬	11	魚	38	門	80
13	老	152	三	27	一	11	有	37	女	74
14	有	139	是	27	來	11	子	35	上	72
15	親	137	郎	24	前	10	我	35	妹	72
16	心	135	朝	23	十	10	頭	34	在	70
17	家	134	頭	20	要	10	大	32	叫	69
18	個	120	丹	19	中	10	郎	32	子	68
19	母	118	伊	19	做	10	將	31	到	67
20	日	117	手	19	娘	9	王	31	兒	59
21	在	115	牡	19	三	9	要	31	娘	59
22	爲	111	辦	19	姑	8	三	29	大	57
23	保	110	人	18	嫂	8	個	29	父	56
24	見	108	大	18	相	8	把	29	生	55
25	了	105	得	18	難	8	人	28	下	54
26	去	103	有	18	可	8	是	28	聲	54
27	大	102	做	17	到/何	7	借	27	母	53
28	悲	102	起	17	善/心	7	得	25	有	52
29	到	99	出	16	弟/生/苦	7	水	25	身	52
30	官	98	十	16	心/用/行	7	東	24	元	51
17833		3193		1094		4017		9547		

次に、「双」及び各種の講唱芸能で、どのような単漢字の使用頻度が高いのかを整理したのが以上の表である。これを見ると、「双」についていくつかその特徴が浮かび上がってくる。

1) 一人称、二人称代名詞の多さ

一人称代名詞である「我」や、二人称代名詞である「你」が上位に来ることは、講唱芸能の特徴であり、小説ではさすがに人称代名詞は上位 20 に入っていない¹⁰。「双」は、「我」が堂々の 1 位、「你」が 6 位であり、テキストの総文字数に対する「我」「你」の割合を出してみると、「双」は 4.2%、「売青炭」は 3.3%（「売青炭」は「你」ではなく呉方言の二人称代名詞「儂」で算出）、「花名宝巻」は 0%、「九郎借馬」は 1.8%、「兄妹分裙」は 2.2%と、やはり一人称、二人称代名詞の使用頻度が抜きんで多いことがわかる。

一人称、二人称代名詞が多い理由としては、例えば、「我金山生来命苦」などのように登場人物の視点から唱う唱詞や白が多いことが考えられるが、紹興の宣巻は、他の芸能と違って複数の演唱者があたかも芝居の脚本を読み合わせするかのようにパートを分けて演唱するスタイルをとるため、代言体の性格が他の芸能よりも強まり、結果的に一人称、二人称代名詞が突出するのであろう。

¹⁰ 上田望「『三国演义』の言葉と文体」（『金沢大学文学部論集 言語・文学篇』第 25 号, pp25-44, 2005）参照。

2) 方言語彙に関わる文字の少なさ

「双」は紹興の宝巻ではあるが、紹興方言がそれほど多用されている訳ではなく、范忠と徐氏（李氏）、そして宿屋の主人金山といった道化役の白で集中的に見られる程度であり、それも巻1の途中までである。巻1の後半部で、物語の時間が16年経過し、范忠は亡くなり、金山の出番も疾うになくなる。徐氏はなぜか李氏に名前が変わり、道化役の性格が消え、呉方言を全くと言っていいほど使用しなくなる（2箇所のみ）。巻1で「老頭子儂來咚話啥西？」（あんた、何を話してるんだい？）と話していた女性は、「張媽媽你手中拿的是什麼？」（張媽媽、あなたの手にあるのは何です？）といった具合に、標準的な口語あるいは卑俗な文言を用いるようになる。

上記の表を見る限りでは、方言が多く地域色が濃く出ているのは、浙江の「落地唱書」であり、二人称代名詞は「你」ではなく「儂」が第2位にランクインしている。また、否定詞も「双」では「不」が5位、「花名宝巻」が2位、「九郎借馬」が4位、「兄妹分裙」が4位と何れも頻度が高いのに対し、「落地唱書」は呉語の否定詞「勿」が7位になっている。

もちろん、実際の上演では紹興の方言音で唱い、語るのであるが、テキストの文字だけから見ると、「双」は江浙の地域の講唱芸能とも共通する言葉で書かれた、呉語圏以外でも通用するほどの汎用性を持ったテキストだと言えるであろう。

3) 親子関係（特に母子関係）を表象する文字の多さ

人称代名詞を除けば、「人」などの一般名詞、数詞の「一」、動詞の「來」、「是」、「有」などが上位に来るのは、他の講唱芸能のみならず小説でもよく見られる特徴である。ただ、「双」では、他には見えない親子関係を表象する「児」（「双」では所謂「儿化」の接尾語とは無関係である）、「娘」、「子」、「親」、「母」等の文字が目立っている。

そこで、この点について考察するために、「双」ほかの講唱芸能において2文字から構成される熟語の頻度を見てみることにする。

【表3 各種芸能で使用頻度の高い2字熟語（上位30字）】

	双状元		売青炭		花名宝巻		九郎借馬		兄妹分裙	
1	狀元	69	牡丹	19	子女	9	九郎	32	狀元	48
2	嬌娘	62	哩哩	17	姑娘	6	龍王	21	父親	28
3	夫人	54	哥哥	13	公婆	5	龍宮	17	子玉	27
4	今日	45	小環	13	花名	5	聽說	15	桃梅	27
5	母親	45	朝奉	13	善人	4	龍馬	13	大人	24
6	孩兒	44	今朝	9	孝順	4	一個	11	母親	24
7	母子	40	三番	7	惡人	4	三姐	11	兄妹	23
8	大人	39	娘舅	7	牢獄	4	將軍	10	原因	23
9	天保	38	店堂	7	賢良	4	葫蘆	10	妹妹	22
10	親生	38	看見	7	何用	3	借馬	9	老爺	21
11	我兒	36	青炭	7	修行	3	夜叉	8	聽說	20
12	老爺	33	匠手	6	做事	3	東洋	8	賽金	20

13	官人	32	外甥	6	兄弟	3	唐王	7	和尚	18
14	素珍	32	令令	5	六月	3	東海	7	員外	18
15	萬歲	30	師傅	5	大人	3	老龍	7	一個	17
16	不表	29	整天	5	寶卷	3	兵器	6	安人	16
17	兒子	29	阿哥	5	爹娘	3	好像	6	家門	16
18	未知	27	今日	4	虛文	3	東西	6	回家	15
19	如此	26	只要	4	門前	3	當時	6	夫妻	15
20	媽媽	26	喔唷	4	閻王	3	綠石	6	北樓	14
21	張媽	26	大安	4			龍駒	6	叫聲	14
22	爹爹	26	好比	4			一匹	5	單氏	14
23	先生	25	就是	4			不是	5	親娘	14
24	王爺	25	早飯	4			借龍	5	龍麵	14
25	老夫	25	篤篤	4			兩個	5	不是	13
26	一個	24	調戲	4			四海	5	姑娘	13
27	保佑	24	豆腐	4			大口	5	什麼	12
28	瑞祥	24	買主	4			潮水	5	不知/悲聲	12
29	娘親	23	起來	4			請神	5	修心/心中	12
30	老身	23	銀子	4			鞍配	5	小姐/急忙	12
17833		3193		1094		4017		9547		

※ 「花名宝卷」については短い作品のため上位 20 位までとした。

「双」の場合、この作品のタイトルである「状元」が 2 字熟語の頻度で首位にあるのはある意味、自然であるが、童子戯の「兄妹分裙」でも同様である点は興味深い。また、「状元」の学位を認定する皇帝を暗に指している「万歳」という語彙も、他の芸能に比べ、ずば抜けて多用されている（他の芸能では 4 作品で僅かに 2 例）。

「状元」以外の語彙では、やはり表 2 のモノグラムの結果と同じく、

「嬌娘」（第 1 位 李天保→張素珍）

「母親」（第 5 位）

「孩兒」（第 6 位 張素珍→子）

「母子」（第 7 位）

「親生」（第 10 位）

など、母子関係を表象する語彙が目白押しである。

一方、父子関係や父親を指す語彙はおしなべて低い順位にランクされており、「兄妹分裙」では「父親」が第 2 位に来ているのと対照的である。

以上、この作品で使われている言葉の頻度から文体の特徴を見てきたが、先にも述べたように、立身出世による予定調和的な大団円がテーマとなっていることは否定しがたい。また「母子関係」に関わる語彙が多いことと矛盾するようであるが、この作品では一見、影が薄い父親たちも、娘の婚姻に際しては家父長として決定権を行使する（范瑞祥の場合

は父親が亡くなっている所以母親が代理)。また、張素珍の息子たちとその家族はみな、皇帝から官爵を授かるなど、登場人物全ての幸福は皇帝(王権)によって認定・保証されるのであり、儒教的父権制がこの物語の枠組みを形作っていると言えよう。

では、母子関係の語彙の多さについてはどのように見るべきであろうか。筆者はこれはこの作品の本当の隠れた主題である母親(中高年女性)救済と密接な関わりがあると考え

る。息子たちとはぐれて、物乞いをして流浪する張素珍はおそらく地獄(餓鬼道)に落ちた孤魂野鬼を象徴しているのであろう。巻1の最後で張素珍が唱う「哀求開店開廠老板門, 發財銅錢丟幾文」(店舗・工場の経営者の皆様、ご商売繁盛をお祈りします、どうか銅錢をお恵みを!)から「今我討得銅錢有千文, 謝謝各位善心人」(今、私は銅錢千文をお恵みいただきました、慈悲深き皆様に御礼を申し上げます)で終わる46句の唱詞には物乞いをするときの常套句も見える¹¹。孤魂超度劇の構造がこの作品の中にもしっかりと根を下ろしていることがわかる¹²。

巻2で彼女を救った実子の范瑞祥には、地獄に落ちた母親の劉氏を探して救おうとする目連尊者のイメージが重なって見える。張素珍は、目連戯と同じように息子によって救い出され、朝廷から節婦として顕彰されることにより、ハッピーエンドを迎えることとなり、これは皇帝権力による恩寵のようにも見えるが、少なくとも登場人物たちは、親子が再会できたことは「多謝天上菩薩保」(張素珍: 天上の菩薩のご加護に感謝します)とあるように、観音菩薩のおかげであり、一族の繁栄も「我們范家今日榮貴, 也靠菩薩保佑」(徐氏: 我が范家の今日の繁栄もみな観音菩薩様のご加護によるもの)なのである。これはもちろん、この地域で根強い観音信仰の現れであるが、表向き、男性中心社会におけるサクセスストーリー(その象徴が状元及第)による救済劇を装いながら、実は息子たちの背後にあるのは御仏と御仏の教えであり、仏教によってのみ真の救済が可能であるというメッセージがこっそり滑り込んでいると見ることも可能であろう¹³。

5. 結びにかえて

宝巻は、その宗教的色彩の濃淡を以て、宗教宝巻と民間宝巻とに大別される¹⁴。

¹¹ 「数来宝」など物乞いの演唱から発展した講唱芸能には類似の語句が見える。汪景寿『中国曲芸芸術論』(北京大学出版社, 1994) pp258-262 第9章「快板論」参照。

¹² 目連戯については日本、中国で多くの論考があるが、目連戯と孤魂祭祀との関わりについては、田仲一成『中国演劇史』(東京大学出版会, 1998) pp189-200 第5章「明代演劇の変質」第1節「鄉村演劇の体制志向」3「目連戯」に詳しい。

¹³ 観音菩薩の故事を唱う宝巻は『香山宝巻』などを初めとして枚挙に遑がない。辻リン氏は「生死牌」物語の変遷を跡付け、「清末民国年間の江南地域の宝巻の盛行と観音信仰がメビウスの輪のように表裏一体の相互関係をなしていた」と指摘している。辻リン編著『搶生死牌寶巻 影印・翻字・注釈』(中国古籍文化研究所, 単刊4, 2005) それに関連して言えば、この「双」も婦女修行宝巻の影響は多少あるかもしれない。なお、この下兪村では現在でも観音菩薩は篤く信仰されており、当地で流通している『三世因果経』の最後に「白衣大士咒」が印刷されている。

¹⁴ 宝巻については、鄭振鐸氏や李世瑜氏、澤田瑞穂氏の分類など様々な分類があるが、こ

「双」は教義のみを説くものではなく、世俗的な立身出世を主題の一つとしているため、厳密な意味では宗教宝巻とは言えない。しかしながら、仏道修行の重要性を強調する言葉や、縁起を祝う門付け的な文句、偶数句の唱詞に付け加えられる「南無佛、南無阿弥陀佛」の辞など、随所に他の講唱文芸にはあまり見えない宗教的な色彩が施されていることが伺える。

また、前節でも見たように、この作品の中には明らかに、張素珍に代表される中高年世代の女性＝母親の救済が別の主題としてあり、それゆえにかくも多くの農村の女性たちが、この物語を、そして宣巻を支持するのであろう¹⁵。現世で苦難に耐え忍ぶ女性、地獄で苦痛を味わう女性が最終的に救済され、成仏するという物語は、元明以来、雜劇や南戲の諸篇、あるいは目連戲など伝統的な文学作品でもお馴染みであるが、その伝統的な主題が世俗的な娯楽性という糖衣を被せられながらも、現在も宝巻の中に脈々と受け継がれてきていることを「双」は我々に教えてくれる。

参考文献 ※ 本文の脚注で引用したものは割愛する。

【紹興の歴史・地理・方言】

- ・大西博子『蕭山方言研究』（『中国語學研究 開篇 單刊 No. 11』，好文出版，1999）
- ・楊葭、楊乃浚『紹興方言』（国際文化出版公司，2000）
- ・『紹興県実用地図集』（湖南地図出版社，2004）
- ・寿永明『紹興方言研究』（上海三聯書店，2005）

【宝巻研究ほか】

- ・鄭振鐸『中国俗文学史』（1938 初印，上海書店，1984 重印）
- ・李世瑜『宝巻綜録』（中華書局，1961）
- ・澤田瑞穂『寶巻の研究』（国書刊行会，1975）
- ・相田洋「国立国会図書館所蔵の「宝巻」について」（『東洋学報』64(3・4)，pp401-411，1983）
- ・胡士瑩編『彈詞寶巻書目』（増訂本，上海古籍出版社，1984）
- ・西北師範大学古籍整理研究所、酒泉市文化館合編『酒泉寶巻』（上下，甘肅人民出版社，1991）
- ・磯部祐子「紹興老芸人探訪記－1900 年代紹興地方劇変遷－」（『中国地方劇初探』pp65-73 第2章「中国地方劇をめぐる諸問題」第2節，多賀出版，1992）

ここでは車錫倫氏の分け方に従った。「双」は民間宝巻の下位分類の「講唱故事宝巻」に属するものと考えられる。車錫倫『信仰・教化・娯楽－中國寶巻研究及其他』（臺灣學生書局，2002）p1-42「寶巻淺説」参照。

¹⁵ 中国は日本の後を追うように、高齢化社会に突入する。紹興各地に集団で念仏をとねえる年配女性の「講」があり、当面は増加の一途を辿る六十代以上の高齢者（女性）がこれからも宣巻を支持し続けるとすれば、宣巻はまだまだ滅びないかもしれない。

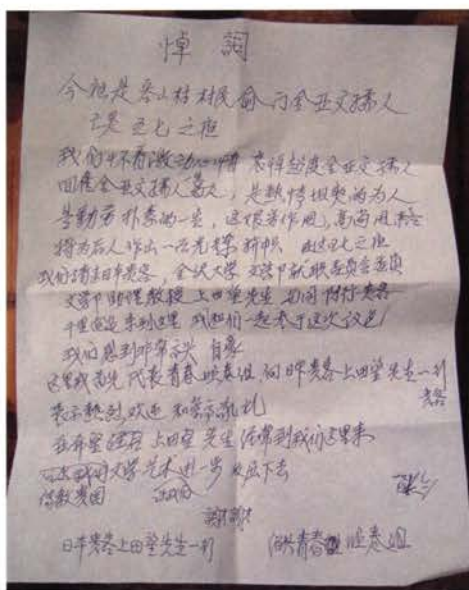
- ・段平纂集『河西寶卷選』（上下，新文豊出版公司，1992）
- ・段平『河西宝卷的調查研究』（蘭州大学出版社，1992）
- ・方步和編著『河西宝卷真本 校注研究』（蘭州大学出版社，1992）
- ・金文京「詩讀系文学試論」（『中国—社会と文化』7，pp110-136，1992）
- ・成濂「宣卷起源和演變之我見」／朱建明「宣卷的属性与社会功能」／魏捷「試談宣卷」／趙克忠「浦東陳行宣卷之形成与現況」／談敬德「上海地区宣卷音樂芸術特点初探」（以上『上海曲芸芸術』1所収，1993）
- ・段平纂集『河西寶卷續選』（上下，新文豊出版公司，1994）
- ・磯辺彰「越中国学所蔵宝卷・宝典について」（『富山大学人文学部紀要』23，pp209-232，1995）
- ・砂山稔「劉文英宝卷考一附 SOAS 図書館所蔵宝卷目錄」（*Artes liberales* 58，pp35-45，1996）
- ・輪田直子「蘇州彈詞における説唱形態の特徴」（『東北大学中国語学文学論集』1，pp33-58，1996）
- ・車錫倫『中國寶卷研究論集』（學海出版社，1997）
- ・Alan, Cole *Mothers and Sons in Chinese Buddhism*, Stanford University Press, 1998
- ・李蔚波主編『寧波曲芸志』（寧波出版社，1999）
- ・『風陵文庫目錄』（早稲田大学図書館，早稲田大学図書館文庫目錄 17，1999）
- ・車錫倫『中國寶卷總目』（北京燕山出版社，2000）
- ・董曉萍、欧達偉共著『鄉村戲曲表演与中国現代民衆』（北京師範大学出版社，2000）
- ・下見隆雄『母性依存の思想－「二十四孝」から考える母子一体觀念と孝』（研文出版，2002）
- ・中国古籍文化研究所説唱文学研究班編『烏金寶卷』（中国古籍文化研究所，単刊 1，2003）
- ・吉川良和「『救母經』と『救母宝卷』の目連物に関する説唱芸能的試論」（『社会学研究』41，pp61-135，2003）
- ・古屋昭弘、氷上正、王福堂共編『梅花戒寶卷 影印・翻字・注釈』（中国古籍文化研究所，単刊 3，2004）
- ・山本範子「荒ぶる仙女 張四姐－河西宝卷『張四姐大鬧東京』を中心に」（『中国学志』臨 19，pp23-41，2004）
- ・小南一郎『宝卷の研究－宗教文芸としての視点から』（平成 15-16 年度科学研究費補助金(基盤研究 C2)研究成果報告書，2005）
- ・鄭之珍撰、朱万曙校点『新編目連救母勸善戲文』（黄山書社，2005）



【写真1 俞邦民氏（右から2人目）】



【写真2 俞氏宅での五七の法事】



【写真3 金氏の悼詞】



【写真4 宣卷の上演風景】



【写真 5 邵氏宅での葬礼】



【写真 6 邵氏宅での紹劇の演奏】



【写真 7 福全鎮下俞村内を流れる洪溪】



【写真 8 福全鎮下俞村内での念仏講】

雙狀元寶卷上下集

俞 邦 民 抄 上 田 望 校注

雙狀元寶卷初展開 恭請神聖降壇來

善男信女虔誠聽 增¹福延壽保平安

恭聞雙狀元寶卷出在大宋仁宗年間，提表山東歷城縣李家莊上，且說一人，旦 離鄉背井²去逃荒，一路之上苦難熬，苦命張素珍，不幸家鄉連遭災荒，一個侄兒取名天保，可憐他也父母雙亡，素珍我把他帶在身旁，可憐家鄉飢寒交迫，難以度日，思想起來好不悲傷人也。

拖兒帶女去逃荒 受盡風霜苦心傷

只爲公婆丈夫亡 家鄉飢荒日難熬

只得帶兒逃出外 異鄉漂泊來流浪

一對姣兒無奶吃 侄兒飢餓淚汪汪

飢寒交迫身無力 受盡苦楚向誰告

走一步來退二步

兒白 嬌娘我肚子好餓呀 悲³ 又見侄兒餓得埢

姣兒又雙雙來啼哭 不由爲娘痛心腸

可憐你剛出娘胎一月另⁴ 受盡飢寒苦氣旺

¹ 原寫作“埢”，疑爲“增”之俗字，待考。

² 原寫作“景”，音同而誤，今正。下同。

³ 旦。據俞邦民先生的解釋，張素珍的唱詞帶悲哀的腔調，故寫做“悲”，下同。

⁴ 另，多。紹興方言。

你未出娘胎爹就亡 無爹孩兒苦悲傷
天涯茫茫何處走 莫非餓死在路上
擡頭一路向前望 只見前面有客商
還是暫且投宿店 免得凍壞孩兒身
不表四人來投宿 店主 要表金山在店堂
高掛⁵一盞燈遠照四方人，咱家非別金山便是，在京都路口⁶開一爿⁷飯店，我租了范員外個房子，前幾日伊⁸來，向我討房租鈔⁹，我付勿¹⁰出，近來生意清淡，才話實介落起看來要吃西北風者¹¹：
我金山生來命苦 從小爹娘早亡故
叔叔帶我到京都來¹² 開爿飯店生意無
不表金山來嘆苦 悲 再表素珍到店中
內邊可有店家 金 來者：今朝運氣好，客人已來到，嘎¹³：
是個女客人請進，女客人可是來投宿的嗎？ 悲 正是，店家可有便宜房間？ 金 有：儂¹⁴看這房間又便宜又清爽。 悲 這間倒¹⁵是好的。 金 介末¹⁶女客人要吃啥¹⁷個酒飯。 悲 呀¹⁸，店家你還是給我討一杯開

⁵ 原寫作“卦”，今正。下同。

⁶ “京”字旁有“路口”二字。

⁷ 紹興方言的量詞。工廠、商店一家叫一爿。參看楊葭、楊乃浚編著《紹興方言》（國際文化出版公司，2000年）第308頁。

⁸ 他。

⁹ “鈔”，紹興方言，錢之意。（俞氏）

¹⁰ 紹興方言。

¹¹ 此句大意是“如果這樣的話，活不下去”。（俞氏）

¹² “到京都”三字旁有“來茂生”三字。

¹³ 感嘆詞。紹興方言，下同。（俞氏）

¹⁴ 你。

¹⁵ 原寫作“到”，今正。下同。

¹⁶ 待考。

¹⁷ 什麼。

¹⁸ 感嘆詞。

水，現在暫時飯不要。金 曉得者。付生 孀娘我肚子好餓呀。悲
嚇，天保這開水你先喝了吧，等下再給你弄點吃的。付生 是。二
生 哇哇¹⁹呀。悲 呀，見二個姣兒哭叫²⁰不停²¹，這叫我如何是好也。

侄兒飢餓叫不停 姣兒啼哭痛娘心

這便叫我如何好 左思右想難熬人

常言道魚兒無水難活命 人無銀子步難行

不若²²將兒去²³賣²⁴掉 賣兒可救四人命

兒呀兒非是爲娘心腸狠 親生兒子賣給人

兒是娘親心頭肉 兒離娘親娘痛心

若不將兒來賣掉 看來四人難活命

忍痛無奈將兒拋²⁵ 但願能遇善心人

扶養我兒來長大 日後母子再相親

打定主意侄兒叫 付生 孀娘高叫爲何因

孀娘你叫我何事 悲 天保你把弟弟抱着，孀娘我到街上去給
你們買點吃的回來。天 是。孀娘你要早點回來呀。

見孀娘抱弟出店堂²⁶ 不由我天保淚汪汪

只因我父母早傷亡 蒙孀娘收留我孤兒郎

孀娘待我似親生²⁷ 恩重如山永難忘

¹⁹ “呀”字旁有“哇”二字，今正。似“娃娃”，待考。

²⁰ 原寫作“叫”，今正。下同。

²¹ 原寫作“仃”，今正。下同。

²² 原寫作“便”，“便”字旁有“若”字，據義正。

²³ 原寫作“來”，“來”字旁有“去”字，據義正。

²⁴ 原寫作“𠂔”，疑爲“賣”之俗字，今正。下同。

²⁵ 原寫作“𠂔”，“𠂔”字旁有“拋”字，今正。

²⁶ 原寫作“門”，“門”字旁有“堂”字，今正。

²⁷ 原寫作“娘”，“娘”字旁有“生”字，今正。

不表天保在店堂 悲 再表素珍去街上

懷中抱着小兒郎 兩行淚珠滿胸膛

非是娘狠將兒拋 娘是爲救小兒郎

雙膝跪在大街上 賣兒賣兒連聲叫

不表素珍賣兒郎 徐 要表徐國棟事一章²⁸

老漢徐國棟，安人徐氏，年紀半百，並無兒女，想我教書爲業，倒也過得清靜日子，今日我心中煩悶不免去到街坊遊玩一番²⁹便了。

想我年紀半百另 未有一個傳後根

徐氏安人多賢惠 可憐到老無後人

行走已到街坊上 見婦人跪地流淚爲何因

嚇，這位大嫂你不是本地人氏，你家住乃裏姓什名誰，因何流淚請道其詳 悲 嚇，先生嚇，

家住山東歷城縣 李家莊上姓張人

三字名叫張素珍 只因逃荒來此城

只因家鄉遭災荒 公婆丈夫命歸陰

生下一對雙胞胎 母子三人苦憐丁

還有侄兒小天保 他父母雙亡我收領

只爲家鄉難度日 出外逃荒離家門

離鄉背井到此來 四人耽擱客店存

小兒挨餓哭連聲 我只得忍痛賣兒身

徐 聽得一番傷心話 不由卑人也心酸

²⁸ 原寫作“椿”，“椿”字旁有“章”字，今正。

²⁹ 原寫作“翻”，今正。下同。

我倒有個二全策 未知大嫂可依允

嚇，大嫂你也不必悲傷，依我之見，你將小兒給我，我將他扶養長大，日後若有出頭之日，仍可母子團聚，不知你大嫂意下如何？ 悲 先生你有如此好心，我感恩不盡，不知先生高姓大名？ 徐 卑人徐國棟，我看你將小孩的鞋子留下一隻，日後鞋子成雙，就可母子相會。 悲 如此多謝恩公請受我一拜 徐 嫂不必如此，快快起來，我這裡有銀子五十刃，你們母子暫且度日。 悲 多謝先生好心，我拜別去也。

多蒙先生有好心 送我五十刃雪花銀

忍痛將兒來拋下 未知何日再團圓

但願我兒能成名 母子相會也高興

拜別先生回店去 回頭再望小兒身

徐 一見大嫂遠遠去 手抱小兒回家門

見他母子分離多難過 鐵石人兒也心酸

日後小兒長成人 定讓他們母子認

不表先生回家轉 范 另表范家一段情

舊年四十九歲今年五十歲，卑人范忠，販賣珠寶爲業，屋裏頭家財富³⁰裕，可惜沒有兒子，也是空稀，都怪伢³¹老太婆肚皮勿張氣，連殺頭³²一顆南瓜子都沒有。 且 老頭子儂來咚³³話³⁴啥西³⁵？ 范 我話儂

³⁰ 原寫作“灾”，疑爲“富”之俗字，今正。

³¹ 伢，紹興方言。複數第一人稱，己方。即我們。（《紹興方言》第203頁）

³² 殺頭，該殺的。罵人語。（俞氏）

³³ 來咚，紹興方言。副詞“在”的中指。（《紹興方言》第204頁）

³⁴ 話，紹興方言。講。參看《紹興市志》卷43 方言・詞彙第2989頁。

³⁵ 原寫作“舍”，據義正。啥西，紹興方言。什麼事什麼東西。（《紹興方言》第204頁）

小人勿會生。丑 要死快咚³⁶哉³⁷，實儂勿會生，我勿嫁不儂介時光試過者，實會生個。 范 嚇，照儂話來還是泡過茶葉汁水淡者。 丑 死老頭噲³⁸，我實騙儂個。 范 嚇，老太婆嚇，

老太婆儂勿正經 別人聽見難爲情

還道儂娘家有情人 我來帶³⁹做烏主精⁴⁰

丑 老頭儂勿可⁴¹氣來生 老夫妻開開玩笑是勿要緊

你我都有半百另 我個脾氣儂知情

怪我肚皮勿張氣 害儂無有後代根

我日日夜夜拜觀音 菩薩一定會顯靈

范 天送我一個麒麟⁴²子 不佻范家傳後根

老太婆總叫儂誠心誠意，觀音菩薩一定會保佑佢個，一定會送個兒子來做種個，閒話少講金山個房租鈿有好幾個月者，我還走帶過去，起收房租鈿起是者。

范忠急急路來行 要往金山店中走一巡

不表范忠去店中 金 再表金山管店中

生意⁴³興隆先吃後空，生意清淡肚皮餓塌，我金山便是，好容易來得個客人，我到生意來者，心裏高興得⁴⁴高興，勿曉得是個窮光蛋婦人，

³⁶ 原寫作“冬”，據義正。咚，用於句末作語氣助詞。有時與“哉”連用。（《紹興方言》第21頁）要死快，意為“快要死了”，罵人語。（俞氏）

³⁷ 哉，紹興方言。用於各類句子的後面，相當於“了”。（《紹興方言》第24頁）

³⁸ 呢，呀，句末語氣詞。吳方言。（俞氏）

³⁹ 來帶，紹興方言。在這裡。（《紹興方言》第21頁）

⁴⁰ 烏主精，紹興方言。王八蛋。（俞氏）

⁴¹ 原寫作“要”，“要”字旁有“可”字，今正。

⁴² 原寫作“其麟”，音近而訛。今正。

⁴³ 原寫作“億”，據義正，下同。

⁴⁴ 原寫作“得”，今正。下同。

伊實外出逃荒來個，連飯鈔都勿着扛⁴⁵，我真當想得倒霉殺者。

今朝客人進店來 金山連忙笑顏開

走上前去忙接待 只見他兩淚汪汪哭起來

問伊始從哪裏來 伊話山東逃荒來

可憐她女流之輩好悲哀 我也勿好去難為

不表金山來自嘆 范 要表范忠進店來

喂，金山儂葛二日生意好勿好？ 金 喔唷⁴⁶，范員外生意奈葛好得來，儂看房間都空着，范員外儂個房租鈔再不我欠二日，等我生意好些一定送到你府上。 兒叫 哇⁴⁷哇。 范 好個金山儂房鈔無有，還老婆討，小人都生出帶者，儂房鈔回鈔勿出，我小人忒好個。 金 嚇，員外這小人是女客人個，勿實⁴⁸我金山個。 范 管儂客人勿客人，唷，相貌介好帶，眼睛大碌碌，鼻頭高松松，一定是個出山貨，讓我還是抱得走。 金 員外，這是別人的孩子動勿得個。 范 金山儂放手，今朝小孩不我，房租鈔我都勿要者。 天 喂員外這小孩是我的弟弟……你這麼可以抱去，還我弟弟。 范 啥個弟弟勿弟弟，我喜歡還實抱得回去。 天 還我弟弟……啊嚇，不好了。

一見弟弟被抱走 不由天保痛心頭

孀娘街上未回轉 這種事情天少有

心亂如麻如何好 孀娘面前這交待

坐在地上哀哀哭 張 素珍回店問情由

⁴⁵ 勿着扛，紹興方言，表示“沒有”。（俞氏）

⁴⁶ 表驚訝的嘆詞。

⁴⁷ 哇，紹興方言。歡呼。（《紹興方言》第314頁）

⁴⁸ 原寫作“不是”，“不是”字旁有“勿實”字，今正。

天保你因何坐在地上啼哭？天 嚇，孀娘呀，你到街上去的時候店裏
來了一個老頭子，他不問情由，將我弟弟掄走了，我上前去奪，只奪
得一隻鞋子。悲 什麼？你弟弟被人掄去了？天 掄去了。悲 啊嚇。
天 孀娘醒來……

悲 聽此言來心似絞 不由素珍痛心傷
一個兒子已賣掉 一個掄去在何方
蒼天爲何無公道 我走投⁴⁹無路如何好
出外逃荒爲兒郎 誰知反將兒來拋
莫非命中來注定 罰我素珍無兒郎
我今不見親生兒 只留下小鞋有一雙
素珍思兒哀哀哭 金 金山上來報事忙

勿對者，店堂裏起火者，趕⁵⁰快逃出去，否則要燒殺個。天 孀娘……
你在哪⁵¹裏，啊嚇，不好了。

大火熊熊燒店堂 不見孀娘心內焦
莫非孀娘被火燒 叫我天保如何好
不表天保孀娘找 悲 再表素珍找天保
不見天保小兒郎 不由素珍心發慌
大火失散小天保 人地生疏⁵²何處找
天乃爲何蒼天不公道 今世罰我大難遭
本當我一死了殘生 怕只怕孩兒長大把娘找

⁴⁹ 原寫作“頭”，據義正。

⁵⁰ 原寫作“干”，據義正。

⁵¹ 原寫作“那”，據義正。

⁵² 原寫作“疏”，據義正。

還有侄兒小天保 無娘的孩兒更悲傷

只得爲兒活下去 天涯茫茫何處找

不表素珍心悲痛 范 要表范忠回到家

老太婆儂快來看，多少有趣個小人帶。丑 儂個死老頭，這個小人一定是儂外頭軋姘頭⁵³軋出來個，侬⁵⁴道我不會生小人，侬到外頭起生個野種⁵⁵回來。范 老太婆儂勿可瞎三話四，我實討房鈿起，金山房鈿付勿出，我見有個小人連忙抱得居⁵⁶來者，反正伢兒⁵⁷子無有，養伊大來好不伢傳種接代個。丑 老太公此話是真當⁵⁸的。嚇唷，這個小人相貌介好帶，還有些像我個。范 老太婆我抱來個小人是勿會差個，儂看伊雪白淨嫩，頭皮圓圓⁵⁹，必中狀元，以後一定會出山個，究得玃⁶⁰猪吃豆⁶¹腐渣個，咳，我話錯者，是豆腐花⁶²加蛋花湯。丑 早對者⁶³，讓伊快些長大起來，不伊⁶⁴讀書考狀元，我做儂也好享福者，老太公，這個小人千萬不可給別人曉得，叫話伢自生個。范 老太婆儂肚皮勿大，奈介生得出來？丑 老太公辦法有個，我小肚裏花絮塞進起⁶⁵，儂做別人講起來，伢老太婆擔身者。范 老太婆儂個辦法好個，鄰舍里紅鴨子分分。丑 老頭子伢不伊取個啥名字？范 老太婆

⁵³ 軋姘頭，吳語。非夫妻關係的男女發生性行為或同居。（《漢語大詞典》）

⁵⁴ 你。

⁵⁵ 私生子。

⁵⁶ 回，紹興方言。（俞氏）

⁵⁷ 原寫作“伢”，疑爲“兒”之俗字，今正，下同。

⁵⁸ 原寫作“正堂”，“正堂”二字旁有“真當”二字，今從之。

⁵⁹ 原寫作“園園”，據義正。下同。

⁶⁰ 俗字，無義。（俞氏）

⁶¹ 原寫作“頭”，據義正。下同。

⁶² 原寫作“化”，據義正。下同。

⁶³ 早對者，意爲“這樣對了”。（俞氏）

⁶⁴ 不伊，意爲“給他了”。（俞氏）

⁶⁵ 原寫作“去”，“去”字旁有“起”字，今正。

噲，我老早想好帶者，不伊取個范瑞祥。丑 好個葛⁶⁶個名字吉利個，
咳，老頭子，這隻鞋子我起藏⁶⁷好，等伊大起來，才話良心好個，伢⁶⁸
勿話出來，才話良心壞個，這隻鞋子拿出來不伊看，也好挖挖伊個腳
底板⁶⁹。范 老太婆偌⁷⁰個說話勿錯

老太婆辦法真當靈 我心裏想想蠻開心
只因自己不會小孩生 拾個小人傳後根
只要待伊如親生 勿怕日後會變心
我同老太婆二個人 精心扶養這小人
將來兒子來成名 榮華富貴享不盡
光陰似箭日月梭 轉眼已是十六春
不表范家養兒情 昇 要表徐家事一端

一粒明珠土內藏，未知何日放毫光，小生徐昇爹爹徐國棟，母親早已
亡故，爹爹扶養小生長大成人，想我每日勤讀詩書，實指望京都提名，
想今歲乃是大畢之年，欲想上京赴考，不免去稟明爹爹便了。

徐昇獨坐在書房 想起功名掛胸膛
男兒立志在四方 理應奮發上京邦
若得一官並半職 徐家祖上也榮光
報答老父養育恩 爲人之子理應當
將身移步去廳堂 徐 另表國棟思兒郎

卑人徐國棟，十六年前，我到街上散悶，適逢張素珍賣兒，我見他十

⁶⁶ 原寫作“這”，“這”字旁有“葛”字，今從之。

⁶⁷ 原寫作“𠂔”，疑爲“藏”之俗字，今正，下同。

⁶⁸ 複數第三人稱，己方。即我們。（《紹興方言》第203頁）

⁶⁹ 挖腳底板，揭老底，算老帳。（《紹興方言》第236頁）

⁷⁰ 原寫作“儂”，“儂”字旁有“偌”字，今正。

分可憐，贈她⁷¹五十刃銀子，將小兒抱回家中，取名徐昇，至今已⁷²有十六歲了，我兒從小聰明好學，勤讀詩書，想今歲乃是大比之年，理應叫他上京趕考，未知他親生母親身落何處，趁我兒上京之時，與他說明，若他一舉成名，就可差人四處尋找，以可母子重逢也。

想起我兒小徐昇 其中情由不知情

他總道卑人是親生 我要將情由說他聽

趁他此番上京城 知道家鄉還有親母親

此番上京去趕考 必定能中狀元身⁷³

不表國棟自安⁷⁴排 昇 要表徐昇廳堂進

爹爹在上孩兒拜見。徐 兒嚇，你不在書房到來何事？昇 嚇，爹爹想今歲正逢大比之年，孩兒欲要上京趕考。徐 嚇，兒呀爲父也有此意，嚇，兒呀，想你已長大成人了，爲父有事要與你說明。

昇 爹爹請講。徐 兒嚇，你不是爲父的親生。昇 嚇，爹爹孩兒自小到大是爹娘一手養大，此言從何而講。徐 嚇，兒嚇，內中情由且聽我一言道來。

十六年前中秋日 你娘帶你來逃荒

你家本住山東城 歷城縣中李家莊

乃年家鄉鬧災荒 你父一命來病亡

娘親生下你雙胞胎 還帶侄兒小天保

家中災荒難度日 孤兒寡母實悲傷

⁷¹ 原寫作“他”，據義正。

⁷² 原寫作“以”，音近而訛。今正。

⁷³ 原寫作“郎”，“郎”字旁有“身”字，今正。

⁷⁴ 原寫作“按”，據義正。

拖扯你們來逃荒 一路求乞到咱莊⁷⁵

爲父出外去遊春 見你母抱你跪地哭悲傷

我贈她五十刀 你母說是賣兒爲救命三條

我就抱你回到家 扶養我兒到今朝

昇 聽此言來淚滿胸 真不叫人痛心傷

我道是徐家生來徐家養 且原⁷⁶來我的生父早夭亡

問爹爹我的親生娘在何方 孩兒要把親娘找

徐 我兒不必淚汪汪 天涯茫茫何處找

只要你功名來成就 四處打聽娘親找

昇 問爹爹娘親有何物留下 要你爹爹說分曉

爹爹你對我真情講 我養育之恩永不忘

徐 留下一隻小紅鞋 爲父緊緊來收藏

對着小鞋成雙對 就是你的親生娘

昇 一見鞋子二淚流 只見鞋子不見娘

娘親不知何處去 無娘孩子實淒涼

娘爲孩兒受盡苦 孩兒思娘痛斷腸

孩兒若有出頭日 定要孝敬侍奉娘

徐 我兒不必太悲傷 且聽爲父把話講

我本不把真情講 只因你母太淒涼

若是孩兒來高中 設法尋找你親娘

若是母子能相逢 爲父也可放心懷

⁷⁵ 原寫作“京邦”，“京邦”二字旁有“咱莊”二字，據義正。

⁷⁶ 原寫作“尻”。

昇 金玉良言記心上 養育之恩永難忘

今日孩兒上京邦 要奪金榜狀元郎

拜別爹爹上京去 望爹保重自安康

徐 難得孩兒多孝順 卑人也可放寬心

但願上天來保佑 母子團聚樂逍遙

不表徐氏父子情 祥 再表范家事一桩

小生范瑞祥爹爹范忠，母親徐氏⁷⁷，爹娘不生多男，單生小生一人，不料爹爹已⁷⁸亡，想我每日書房攻書，只望日後成名，想今歲大比之年，我欲想上京赴考，不免到內堂去稟明母親知道便了。

爹娘愛我掌上珠 精心扶養我十六春

十年寒窗勤攻讀 金榜題⁷⁹名天下聞

一來報答父母恩 二來范家躍門庭

不表瑞祥到內堂 李 要表李氏思兒郎

轉眼一去十六春，領來兒子養成人，老身李氏想十六年前老頭子收房鈿起，抱來了一個兒子，取名瑞祥，現已十六歲了。生得聰明伶俐⁸⁰，終日在書房攻書，對仝二老父母十分賢孝，可惜，仝老頭子已經病亡。祥 母親在上孩兒拜揖。 李 喔唷，寶貝兒子你不在書房到來何事？ 祥 母親大比之年已到，兒欲想去上京趕考特來稟明母親知道。李 好，你兒子要上京趕考，做娘個當然高興，爲娘與你準備行裝，且聽我一言道來。

⁷⁷ “徐氏”二字旁有“李李”二字，後面范瑞祥母寫做李氏，待考。

⁷⁸ 原寫作“以”，據義正，下同。

⁷⁹ 原寫作“提”，據義正。

⁸⁰ 原寫作“玲利”，據義正。

兒嚇 你今上京干功名 爲娘日夜掛在心

路上切勿多耽停 早投宿店早安身

願⁸¹兒此去高官做 爲娘在家聽佳音

你有官無官早回程 切勿停留在京城

今日母親來分別 未知何日再相親

祥 勸娘勿必掛在心 望娘在家自保重

倘若孩兒頭名中 榮宗耀⁸²祖換門庭

母親嚇 只怕去京路途遠 塌⁸³出考場一場空

李 兒嚇，向我家有傳家之寶夜明珠一粒，如若功名塔出，你只要向皇上獻上這顆明珠，也可做一個獻寶狀元。祥 多謝母親孩兒拜別去也。

拜別堂上老娘親 要往京城走一程

望娘在家多保重 孩兒在外也放心

李 只見我兒出門庭 不由老娘暗傷心

雖然不是我親生 要比親生還孝順

我兒此番京都去 獻寶狀元穩有份

不表夫人盼兒身 悲 再表素珍一段情

再表十六年前張素珍兒子丟失，侄兒失散，一直流落街頭，白天沿街求乞，夜宿破廟安身，實指望見到親生兒子一面，就是死了也瞑目也。

想起了十六年前心酸事 往事歷歷記心間

⁸¹ 原寫作“元”，今正，下同。

⁸² 原寫作“妖”，疑爲“耀”之俗字，據義正。

⁸³ 後文寫作“塔出了考場”。待考。

兒嚇娘受苦辛你可知 盼兒盼了十六春

望兒望得兩眼穿 想兒想得肝腸斷

但願蒼天來保佑 賜我母子重相見

嚇，天那是否能給我母子相會一面，若能得見我兒一面我死九泉也瞑

目了，可憐我身上寒冷，腹中飢餓，步高步低路途難行，來至街上，

可憐我飢餓難當無奈只好雙膝跪地，求乞便了。

哀求開店開廠老板門 發財銅錢丟幾文

保佑出門順利保平安 順風駛舵保太平

保佑四面貴人相照應 八方財寶進門庭

保佑生意興隆多茂盛 一年四季賺黃金

哀求吃素唸佛太太們 慈悲銅錢丟幾文

保佑福也增來壽也增 壽比南山老壽星

保佑眼目清亮腳手健 好比松柏永長青

保佑代代兒孫做公卿 兒孫滿堂鬧盈盈

保佑年紀活到九十九 還勿夠不倂一百念歲做大壽

哀求賢良好心大娘們 賢德銅錢丟幾文

救救我個落難人 保佑倂夫妻和睦情義深

保佑早生貴子跳龍門 白頭到老福壽增

哀求漂漂亮亮姑娘們 加班銅錢丟幾文

保佑有福有壽多福分 配個老板做夫人

哀求年青力壯叔伯們 救救我個落難人

辛苦銅錢丟幾文 保佑一年四季賺黃金

哀求讀書趕考官官們 聰明智慧銅錢丟幾文
保佑連科高中步步進 大學考進穩督定
保佑做個中央幹部接班人 轎車進出躍門庭
保佑長命百歲永長春 合家團聚笑盈盈
保佑種田下地叔伯們 辛苦銅錢丟幾文
保佑身體健康福壽增 田稻年年好收成
今我討得銅錢有千文 謝謝各位善心人
未知後事如何樣 要表天保一個人
喧⁸⁴到此處停頭回 赴考成名下卷出

雙狀元寶卷 卷二

果 小生天保家住山東歷城縣，父母早已亡故，只因乃年災荒，孀娘帶我和二個堂弟，出外逃荒，無處投奔以生存，孀娘去街坊賣弟救命，誰知另一堂弟又被人掄走，我與孀娘傷心之際，不料店中失火，慌⁸⁵忙逃命在逃命之中我與孀娘失散，從此查無音信，可憐我孤單一人，一路求乞，今我已到京城，肚中飢餓難當，只好去求討些便了。

不表天保去求討 爺 要表王爺出京城

赤膽忠心保君皇，定國山河立朝綱，本藩羅定方官居平南王之職，夫人郝氏，不生多男，單生一女，在年十六生得十分玲瓏，尚未受茶，只因無有相當的才郎佳婿，故而我家中憂⁸⁶慮，前去到街坊閑游一番⁸⁷

⁸⁴ 原寫作“喧”，疑為“喧”字，今正，下同。

⁸⁵ 原寫作“荒”，今正。下同。

⁸⁶ 原寫作“優”，據義正。

⁸⁷ 原寫作“反”，據義正。

便了。

王爺移步到街坊 來往人多鬧非常

京城之中好風光 觀看街景像天堂

不表王爺遊街坊 保 再表天保在街上

可憐我衣衫寒冷有且可 肚中飢餓實難當

我雖有文章肚內藏 無人擡舉也是枉

今日來到京城上 討些錢文過時光

不表天保在街上 爺 要表王爺觀見在心上

嚇呀，耳聽有人叫飢餓寒冷，待我前去看來，呀，原來是一個年青後生，見他人品秀麗，一表人材，不像落魄之人，為何在街坊求乞，待我問他一問。家人。 什 咱。 爺 你去叫這個求乞人過來見我。 什是，噲啫個後生，求乞人王爺叫你去見過王爺，你要小心。保 是，王爺在上，求乞人叩見王爺。爺 求乞人你家哪裏，姓什名誰，乞道其詳⁸⁸，細細說來。保 如此王爺容稟

我雙膝跪在地埃塵 一一稟告王爺聽

小生家住山東歷城縣 李家莊上我家門

李天保三字小生名 父母早已命歸陰

多蒙孀娘有好心 扶養我小生長成人

幼年曾把四書讀 只因家鄉遭災情

孀娘帶我堂弟來逃命 金山飯店暫安身

身邊沒有半文銀 孀娘賣兒救我命

⁸⁸ 原寫作“祥”，據義正。

一個堂弟被人掄 店中失火都逃命
以此孀娘來失散 我無法求乞到京城
望王爺發發慈悲心 救我小生一條命
爺 聽了書生訴哀情 不由老夫心思忖
他雖是一個乞丐人 也是攻讀詩書文
他父母雙雙都亡故 也是一個可憐人
多虧他孀娘好心人 扶養他攻讀長成人
家鄉遭災荒來逃生 眉清目秀像貴人
我見他心中多喜愛 不如與我做螟蛉⁸⁹
我還是對他直言說 不知他心若何能

嚇，天保本藩見你喜愛，我有一女年方十六尚未聯姻你在我府上入贅，找你爲婿，我去到皇上啓奏，封你官職，未知你意下如何？保 多蒙王爺喜愛，小生無不遵命。 爺 好如此家人備轎回府。 什 嘎。

什 一路之上多熱鬧 歡歡喜喜回府門

爺 王爺進府坐高庭 請出夫人說分明

王爺急⁹⁰忙請出夫人，將始末情由與夫人說明

夫人 夫人聽了十分喜愛，就與王爺說道，嚇王爺你快去稟明聖上，封他官職，好與我女兩⁹¹下完婚。爺 是夫人言之有理，下官就此上朝，來至朝堂，俯伏金階，臣平南王羅定方有本啓奏。 皇 奏來。 爺 啓奏萬歲。臣出京遊街路遇李天保，家鄉遭荒逃身落魄，一路求乞來京，

⁸⁹ 原寫作“螟蛉”，據義正，下同。

⁹⁰ 原寫作“即”，據義正，下同。

⁹¹ 原寫作“二”，下面有“與姑爺小姐兩下完婚”句，今正。

我見他才貌雙全，人材出衆，收留他爲螟蛉作子。招贅東床，望吾皇封他官職，與我女完婚，望吾皇準奏。 皇 旨下依卿所奏，寡人明白，封李天保爲二省巡按退班。 爺 萬歲萬歲萬萬歲。

封兒爲巡按 就此回家把禮

即速回到府門庭 安排花燭結聯姻

王爺回到府門就吩⁹²咐家人上掛燈結彩，下紅氍鋪地點起龍鳳花燭，與姑爺小姐兩下完婚，傳儂相⁹³。 什 來者，我做儂相，喉嚨勿響，看見魚肉二隻眼睛剎⁹⁴亮，王爺在上，儂相叩頭。 爺 起來。你好言讚上重重有賞。 什 曉得者，一隻金雞街上遊，一隻鳳凰在裏頭，有一個仙人來作伐，雙雙配結佳偶，請出新人新郎入華堂請拜。

保 左邊立着新貴人 旦 右邊立着女千金

四拜天來四拜地 再拜福祿壽三星

請出南山老壽翁 增福增壽免災星

祝壽公公到華堂 手拿福杖祝紅妝

多福多壽多男子 日富日貴日安康

夫妻雙雙同到老 早生貴子跳龍門

祝罷一番身進內 保 牽紅入帳進洞房

什 堂上擺起滿堂酒⁹⁵ 衆客飲酒鬧堂堂

旦 新人見禮來謝酒 什 衆人稱讚女紅妝

各人席散回家去 旦 要表夫妻新婚情

⁹² 原寫作“分”，今正。

⁹³ 原寫作“賓相”，應為“儂相”，今正，下同。

⁹⁴ 原寫作“殺”，今正，下同。

⁹⁵ 原寫作“酒”，音近而訛，今正，下同。

嚇，官人我與你今日是新婚之夜，理應歡歡喜喜，見你雙眉不展，且是爲何？保 娘子，我多蒙王爺喜愛，作爲螟蛉，招贅你家爲婿，蒙萬歲封我二省巡按，嚇，娘子但我還有一樁心事未了，故而心中憂悶。且 未知官人有何心憂之事，說與我爲妻知道。保 嚇，娘子嚇，

只因我幼年父母早傷亡 多蒙孀娘扶養成

今日我身雖榮耀 不知孀娘在何方

養育之恩定要報 故而心中悶沉沉

娘子你是好賢妻 因此真情說你聽

且 官人說出真情話 叫我雙眼淚紛紛

官人是好心真君子 養育之恩不忘情

奴家我上前去相勸 勸官人不必悲心間

只要官人良心好 孀娘一定能找到

快派家人去察訪 打聽孀娘在何方

保 娘子果然有才情 天保我像蒙東⁹⁶人

多虧娘子來提醒 我二照辦去執行

多蒙王爺有好心 找我在府入贅爲螟蛉

皇上封我爲巡按 我要忠心治萬民

上報皇上社稷安寧 下治萬民定太平

一夜話文不細表 次日巡按上任行

奉旨治萬民執法不容情，下官李天保家住山東歷城縣，父母早亡，只因那年災荒，孀娘帶我和二個堂弟出外逃荒，無處投奔，難以生存，

⁹⁶ 蒙忪，即懵懂，糊塗之意。

孀娘去到街坊賣弟救命，誰知另一堂弟也被人掄走，我與孀娘傷心之際不料店中失火，慌忙逃命，在逃命之中我與孀娘失散，從此查無音信我一路求乞，來到京都，有羅王爺前來遊街，見我喜愛，招我在他府入贅爲婿，去奏聞聖上萬歲封我爲二省巡按，我幾次派人去打聽孀娘下落，叫我下官掛念人也。

想起孀娘下落好悲傷 未知流落在何方

養育之恩永難忘 天保我永遠記心上

未知孀娘在何方 正叫下官掛心膺

不表天保思念事 官 另表考場事一樁

奉旨考奇才，舉子進場來，三月桃花紅，九月菊花黃，三場文字瑞，特選狀元郎。下官翰林院吉天祥，奉旨開科取才，左右大開貢院門，考生們各分天地字號。 什 嘎。 昇 生員天字號徐昇。 什 學生地字號賈油光。 官 地字號下去，天字號上堂，領對。 昇 在。 官 聽着，雪壓竹梢頭落地。 昇 對就了，風吹荷葉背朝天。 官 好奇才，龍虎日看榜。 昇 謝太師。 官 地字號上來領對。 什 請老太師吃牛肉 官 咳，出題目你聽着，前面一隻雌雞，後面一隻雄雞，追來以追起，好像一對夫妻。 什 來帶着，前面一隻雌狗，後頭一隻雄狗，追來追起好像老太師個娘舅。 官 文字下流，趕出貢門。 什 喂：足殺乃⁹⁷個娘，做我推出者，三年勿來考，考場出青草⁹⁸，回去賣個大餅油條 官 舉子文章好，上殿奏君皇，左右啓道上朝。 什 嘎。

祥 走呀。

⁹⁷ 乃，你。紹興方言。（俞氏）

⁹⁸ “三年勿來考，考場出青草”，係俚語。（俞氏）

離別娘親上京城 但願早到帝皇城

身邊帶着傳家寶 娘的話兒記心上

不覺來到京地。 什 嘎。 祥 大聲喧鬧爲何因，請問小哥前面因何如此熱鬧？ 什 今朝王爺來佟⁹⁹選考狀元郎，前面是老太師個轎子，考場完畢，去上京復旨。 祥 嚇想我果然來遲了一步，塔出了考場，這便如何是好，嚇，有了母親有言在先，如若塔出考場，可將夜明珠送上，待我還是攔轎。 什 喂，你這後生因何攔轎？ 祥 我要面見太師有要事相告。 什 你且站着，太師有傳。 官 何事？ 什 太師有一後生有事要面見太師。 官 住轎，你這書生何故攔轎？ 祥 嚇，太師爺嚇，只因小生家中路途遙遠，我來遲了一步，塔出考場，誤了功名，今有傳家之寶夜明珠選與皇上。 官 嚇，原來如此，好，老夫明日一早帶你上朝，見過萬歲，當面試才華。 祥 多謝您太師爺了。

瑞祥一聽喜心苗 明日一早去上朝

皇 鳳閣龍樓萬古千秋，寡人大宋仁宗是也，今乃大朝日期，內侍¹⁰⁰傳旨，宣放龍門。 什 噫萬歲有旨宣放龍門。 官 臣等見駕吾皇萬歲。 皇 衆卿平身，有事奏上，無事退班。 官 臣吉天祥有本啓奏。 皇 奏來。 官 臣啓萬歲，臣奉¹⁰¹旨選考人才，今有舉子文章呈上，請萬歲龍目觀看。 皇 待寡人看來，嘎哨妙呀，果然文章錦繡。 官 臣還有本奏。 皇 奏上來。 官 臣啓萬歲，今有范忠之子范瑞祥，因家鄉路途遙遠，來遲了一步，塔¹⁰²出了考場，現有傳家之寶夜明珠一顆獻與

⁹⁹ 紹興方言的介詞、副詞。“在”的意思。普通話無法全譯。（《紹興方言》第21頁）

¹⁰⁰ 原寫作“內待”，據義正。下同。

¹⁰¹ 原寫作“逢”，音近而誤，今正。下同。

¹⁰² 塔，紹興方言，來遲。（俞氏）

皇上，萬歲何不叫他金殿面試文才，封他官職。 皇 愛卿所奏無差，
內侍傳旨命范瑞祥官帶上殿。 什 萬歲有旨范瑞祥官帶上殿。 祥 領
旨范瑞祥見駕吾皇萬歲。 皇 范愛卿平身。 祥 謝萬歲。 皇 范愛卿
因你路途遙遠，塔出考場¹⁰³，寡人念你獻寶有功，賜你金殿面試文章。
祥 臣領旨，請萬歲龍目觀看。 皇¹⁰⁴ 待寡人看來，愛卿文章果然不
錯，內侍傳旨命徐昇官帶上殿。 什 萬歲有旨命徐昇官帶上殿。 昇 領
旨臣徐昇見駕吾皇萬歲。 皇 愛卿平身，徐范二卿過來聽封。 祥昇 臣
受封。 皇 徐愛卿封爲新科狀元，范愛卿封爲獻寶狀元，欽者謝恩。
祥昇 萬歲萬歲萬萬歲。

昇 得中狀元出京城 回家祭祖耀門庭

鳴鑼開道多顯赫 前呼後擁鬧盈盈

旗牌執事分左右 八名校尉緊緊跟

隊伍到了城門口 文武官員送出京

不表兄弟榮耀事 王 再表吏部王大人

赤膽忠心保我主錦繡龍庭，老夫王文林官居吏部之職，夫人早年亡
故，生下一女，取名雲霞，想我兒年方二八，尚未受茶，只爲女兒終
身大事，好叫我老夫掛念人也。

只爲女兒終身事 老夫時刻掛心間

雖然女兒多賢孝 沒有門當戶對人

若是揀個乘龍婿 老夫也可放寬心

不表文林心內想 昇 要表狀元參拜情

¹⁰³ “考場”二字旁有“功名”二字。上面有“塔出考場，誤了功名”句。待考。

¹⁰⁴ 原無“皇”字，據義補。

什 報新科狀元徐昇前來參拜。 王 命他進見。 什 是，新科狀元進見。 昇 恩師大人在上，門生徐昇大禮相見。 王 免禮，一旁坐下。 昇 謝太師告坐了。 王 狀元公想你年少登科可敬可喜。 昇 一托聖上洪福，二托恩師之福也。 王 乃裏……狀元公自福有餘，未知狀元公姓什名誰，家住哪裏？ 昇 恩師大人容稟，

家住河南太平村 府居就是徐家門

爹爹名叫徐國棟 徐昇就是我的名

王 狀元你是河南人 家中大小有幾口

昇 門生家中無別人 只有父子二個人

我父教書是先生 扶養門生長成人

王 未知你可有妻房配 老夫面前說明白

昇 我日夜攻讀在芸窗 對親二字莫談講

王 一聽此言心花開 我見狀元心喜愛

還是直言對他說 可與我女親來配

狀元公，老夫有言難啓齒。 昇 恩師直談無妨。 王 狀元公，老夫家有一女，年方二八，尚未聯姻，我想把女兒終身許配與你，不知狀元公意下如何。 昇 嚇，恩師小姐乃金枝玉葉，門生豈能高攀。 王 狀元公你乃是天子門生，老夫十分喜愛，這也可說是門當戶對。 昇 如此，多謝恩師大人。 王 現在你我要改口相稱了。 昇 如此，岳父大人在上，小婿徐昇叩見。 王 哈哈，賢婿罷了，想今日乃是黃道吉日，你到內邊改換衣衫，就在府中拜完花燭。 昇 多謝岳父。 王 來呀，家人們聽着，上掛燈結彩，下紅氍鋪地，與姑爺小姐兩下完婚。 什

散樂の源流と中国の諸演劇・芸能・民間儀礼に見られるその影響に関する研究

遵¹⁰⁵命。王 傳僮相。什 來者……叩見大人。僮相叩見¹⁰⁶。王 你好言讚上重重有賞。什 是，伏似鳳凰配金雞，天生一對好夫妻，今日拜天地，明年生個小弟弟，請新娘新郎入華堂，請拜。一拜天，二拜地，三拜祖先，四拜高堂，夫妻對拜，送入洞房，鳴鑼升炮。

祥 金殿上面試才畢 胸有成竹不用慌

還是趕快回店堂 明旦一早見君皇

不表瑞祥店堂事 皇 要表金殿事一樁

金殿當頭紫閣隆，仙人掌朝玉芙蓉，太平天子朝南坐，五色雲車降樂龍，寡人大宋仁宗，自登基以來，國泰民安，風調雨順，馬放青山，此乃寡人一朝洪福也。

寡人我 坐龍庭 國泰民安

全仗着 二班的 保國忠臣

今歲是 大比年 立選狀元

民安樂 太平春 萬萬之年

昇 參拜天地結成雙 夫妻雙雙入洞房

掛燈結彩鬧盈盈 洞房花燭喜非常

什 廳堂賀客多熱鬧 酒席之上讚紅妝

席散各自回家去 昇 要表新郎觀紅妝

揭開蓋頭紅，心喜看嬌容，啊，妙嚇。

見娘子貌似天仙下凡塵 好似嫦¹⁰⁷娥下月宮

¹⁰⁵ 原寫作“尊”，今正。下同。

¹⁰⁶ “僮相叩見”似爲“什”的口吻。前文已講“叩見大人”，疑爲衍字。

¹⁰⁷ 原寫作“常”，今正。下同。

我今生配得名門女 真好比三世姻緣今相逢

真是下官有福份 鳳冠霞佩報恩蓉

我走上前去娘子喚 呀猛想起娘親悲滿胸

母親娘呀，今日孩兒已做了高官，實指望母子團聚，通享榮華，但未知母親身落何處受苦，好叫我孩兒如何尋找，嚇呀，娘嚇，

耳聽樵樓打二更 想起娘親心悲痛

娘呀孩兒今日狀元中 未見我娘影和蹤

你爲兒受盡千般苦 總道今日可重逢

孩兒今日大喜日 乃有心思伴嬌蓉

不表徐昇自來嘆 且 要表親娘問君郎

耳聽樵樓打三更，只見官人獨坐一旁，愁眉不展，不知有何心事，嚇，官人。昇 娘子。 且 奴見你愁眉不展，未知爲了何事？ 昇 嚇，娘子呀，

各人自有個人事 我的心事誰人知

且 別人心事我不知 官人心事我略知

昇 若要知我心內事 除非蓬島老仙師

且 我雲霞一不呆二不痴 從小讀過聖賢書

要知官人心內事 要做蓬島老仙師

官人嚇 看你終日悶遲遲 定有心事不肯訴

莫非嫌我嫁妝少 害你官人少面子

昇 你十裏紅妝到徐府 城裏城外誰不知

且 莫非嫌我爹官職底 難配你狀元一及第

昇 岳父官居爲吏部 朝中大臣都敬重

旦 莫非嫌我少禮義 官人因而悶心裏

昇 你閨房熟讀女兒經 樣樣做事稱我心

旦 莫非丫環得罪你 官人呼喚不理你

昇 有你娘子家教嚴 下等個個聽使喚

旦 莫非嫌我容貌醜 有害官人狀元身

昇 夫妻豈能容顏論 何況娘子容顏賽西施

旦 這不是來那不是 爲妻難猜你心頭事

嚇 官人你這也不是那也不是，爲妻我猜不着了，爲妻與你可有一比。

昇 比作何來？ 旦 嚇，官人嚇，

官人你可比天上月 爲妻好比月邊星

月若亮來星也明 月若暗來星也昏

官人若有千斤擔 爲妻分挑伍佰斤

問君若有疑難事 可將真情說我聽

昇 娘子果然賢德女 出言吐語有才情

我何不與她真情講 要與娘子共商量

嚇，娘子我想往事心中不安，故而獨坐自嘆。 旦 嚇，官人你有什麼

難事快快說與知道，爲妻也可與你分解憂愁。 昇 嚇，娘子，我不說

你乃爲知道也。

那年家鄉鬧災荒 我娘帶我來逃荒

只因飢餓實難熬 我娘只得賣兒郎

將我賣到徐家門 繼父扶養我長成人

十六年光陰忽忽過 養父實言講我聽
說我還有親生母 如今流落在鄉村
我常爲此暗傷心 未知何日見娘親
且 勸官人且把心來放 且聽爲妻有言講
官人何不差人馬 打聽婆婆在何方
但願神聖來保佑 找到婆婆老年蒼
爲妻情願唸佛在經堂 重修廟宇佛金裝

不表狀元洞房事 悲 要表素珍在街坊
老身張素珍，爲尋找親生兒子，已經十八年了，可憐我吃盡千辛萬苦，
不能找到我兒，白天在街坊求乞，晚上耽擱古廟，莫非我前世作了惡
事，今生罰我有兒難找，看來若要母子團聚，除非夢裏相見了。

望兒望得二眼穿 思兒思得肝腸斷
莫非前世不修透 今世難與兒相見
若能得見親兒面 死在黃泉也目瞑

在表素珍在街坊 祥 再表瑞祥回府門
上京趕考中頭名，奉旨回家祭祖墳，下官范瑞祥因上京趕考，塔出考
場，幸虧母親叫我帶上夜明珠一顆，萬歲將我金殿面試，封我獻寶狀
元，要我回家祭祖，左右。 什 甯。祥 打道回府。什 嘎。

奉皇上旨意出京城 要爲人民審冤情
皇上賜我一顆印 爲國爲民理該應
奉旨遊街坊已畢 回家祭祖不留停
轎子行到大街上

悲 老爺求討一些。 祥 呀：見老人跪地爲何因

什 啓大人，有一老婆婆跪在地上求討。 祥 快快扶她起來。什 你這老婆婆快快起來，見過我家大人。悲 是，老爺在上，老婦人叩見。祥 啊呀，爲何刹時頭昏目眩，老婆婆快快請起。悲 多謝大人。祥 你這老婆婆爲何如此悲哀，何不對下官說。悲 如此大人容稟，

十八年前事一樁 想起往事淚汪汪

生下一對雙胞胎 還有侄兒小天保

只因外出來逃荒 無錢忍痛賣兒郎

誰知一兒又被掄 失散侄兒無處找

留下老身一個人 沿街求乞過時光

祥 老婆婆，聽你說來十分可憐，還是依下官之見你且到我府中安身，我替你四處打聽你兒子下落，母子就有團聚了。悲 多謝老爺好心。
祥 如此左右準備轎子，打道回府。

祥 二乘轎子緩緩行 一路之上不留停

行來已到范府門 李 范老夫人思兒身

我兒中頭名，老身喜十分，老身李氏，員外范忠，已經亡故，拾了個兒子瑞祥，倒也十分孝順，上京得中了狀元，遊街三日，就要回家。
什 報狀元回府。李 出外迎接。祥 拜見母親。李 兒嚇，罷了，一旁坐下。悲 夫人在上老身叩頭。李 起來，兒嚇¹⁰⁸，這位是誰？
祥 母親容稟，

孩兒我今日一路回門庭 路遇老人哭淒涼

¹⁰⁸ “呀”字旁有“嚇”字，今正。

孩兒問她情由事 只爲逃荒離家鄉

失散姣兒無處尋 沿街求乞過光陰

此情此景兒同情 因此帶她回家門

李 聽此言來暗傷心 鐵石人兒也同情

我兒果然有善心 留進老人回家門

從此我家來安居 一切由你來承擔

兒嚇，你有如此好心，爲娘不會怪你，我們范家今日榮貴，也靠菩薩保佑，理應積德，以保來生，不知老媽媽叫什麼名字？悲 夫人我叫張素珍，山東人氏。李 如此張媽媽到內邊去姜湯沐浴，改換衣衫，就在我家養老。悲 多謝夫人。李 家人領張媽媽到裏面休息。什麼是，曉得。

悲 承蒙夫人良心好 留我他她家來養老

暫且住在范府內 日後慢慢把兒找

曼表張氏在范府 李 再表夫人把話講

兒嚇，想你今日已經高中回家，爲娘爲你的終身擔憂，前日有媒婆與你說親，是乃金太守之女，生得才貌出衆，我想正是門當戶對，不知我兒意下如何？祥 母親，孩兒想金太守之女千金之體，定是嬌生慣¹⁰⁹養，孩兒寧願娶一個清貧人家之女，安分守己，賢淑勤勞，以免母親日後淘氣。李 兒嚇，太守之女定是知書達理，娘是勿會淘氣個，聽娘的話，明日前去說親便了。

你母子二人來商議 談談說說好歡喜

¹⁰⁹ 原寫作“貫”，音近而訛，今正。

未知説親如何様 未知這樣來成親

雙狀元寶卷喧到此處停半本

下面還有請多情

李 我差媒婆去説親，此刻未見轉回程，老身李氏，員外范忠十八年前員外從店中抱來了一個嬰兒，取名瑞祥今年十八歲了，秋試得中了狀元，有媒婆前來做媒説金太守之女金臘，生得才貌雙全，與我兒同庚，我已差媒婆前去發聘，此刻未回，我真當記掛殺者。

我兒已經高官中 闔家大小受皇封

雖然不是我親生 要比親生還要親

只爲我兒婚姻事 老身時刻記心中

只望娶個賢媳婦 好與范家來傳種

不表夫人思念情 媒 再表媒婆到府中

我做媒婆全靠會話，東邊走，西邊坐，媒事做成，銀子參進……夫人在上媒婆叩頭者。 李 嚇，媒婆不知金家如何？ 媒 嘎，夫人金老爺答應者，說明日是黃道吉日叫夫人明日發轎迎娶。 李 好。你裏面酒飯。 媒 多謝夫人。

李 裏面家人聽着，上掛燈結彩，下紅氍鋪地，發轎。

范府今日多熱鬧 掛燈結彩喜非常

什 家人上下多忙碌 行郎¹¹⁰執事都來到

鼓樂吹手擁轎行 高頭大馬騎新郎

¹¹⁰ 行郎，紹興方言。幫助喜慶人家打雜的人。（《紹興方言》第144頁）

什 花轎到。李 快快打轎上來出轎。傳相賓。 什 來者。 李 好言讚上重重有賞。 什 是。伏似鳳凰配金雞，雙雙拜天地，新娘蠻歡，新郎勿願意，新郎回到書房裏，新娘房裏空稀稀，請新郎新娘入華堂，請拜，一拜天，二拜地，三拜祖先，四拜高堂，夫妻對拜，送入洞房。

范府門前多熱鬧 官員賀喜來得忙

祥 夫妻華堂來交拜 丫 丫環提燈入洞房

什 散席各自回府門 祥 新郎獨自回書房

什 不表外面多熱鬧 旦 再表房內女多嬌

洞房之夜本是喜，因何不見新官人，奴家金臘爹爹金延，官居太守，爹娘不生多男，單生奴家一人，愛如掌上明珠，有爹爹作主配與狀元范瑞祥爲妻，今日新婚之夜，爲何不見官人在旁，思想起來好不煩悶人也。

父母作主配范郎 總道配下好夫郎

誰知今日新婚夜 不見官人爲那樁

莫非親友尚未散 莫非他酒醉回書房

莫非嫌我爹爹官職小 難配狀元如意郎

左思右想難猜測 不知爲了那一樁

我是太守之女有名堂 今日新婚之夜獨坐在閨房

耳聽樵樓打三更 不免坐等到天亮

不表小姐洞房夜 徐 再表徐府事一樁

堂前開壽筵，闔家喜歡顏，卑人徐國棟，安人早已去世，領了一子，取名徐昇，上京趕考，得中了頭名，他對我十分孝敬，這也是徐家祖

上之積德，今日是卑人六十榮慶，熱鬧非凡，因何不見我兒同科狀元范瑞祥到來？我不免差人前去請來便了。

今日卑人壽辰期 闔家大小樂歡喜

兒媳爲人多賢孝 也是卑人好福氣

堂前親友都來到 不見瑞祥是何意

不免叫出小家人 去請范家來赴宴

家人我有名帖一個，請范狀元過府飲酒。 什 是曉得者。

奉¹¹¹了老爺一支命 要到范府去送信

三腳二步不留停 行來已是范府門

內邊小哥請了。 什 請了。 什 我奉徐老爺之命，有名帖呈上。 什 好，待我交與老爺，老爺有請。 祥 何事？ 什 徐老爺有名帖一個請老爺觀看。 祥 待我看來。

我把名帖看明白 徐府相請爲何來

原來伯父壽日到 六十榮慶壽筵開

要我過府把酒飲 一片誠情難推且

不免叫出張媽媽 速送壽禮到徐府

內邊張媽媽哪裏？ 悲 來了，老爺有何吩咐？ 祥 張媽媽今日徐老爺六十榮慶，叫你夫人準備壽禮送往徐府而去。 悲 是，老身曉得者。

狀元老爺良心好 想救我素珍命一條

看來今生難補報 來生犬馬把恩報

今日老爺送壽禮 上樓報與夫人曉

¹¹¹ 原寫作“逢”，據義正。下同。

本乃是新婚夫妻多恩愛 今我獨坐空房冷如冰

我幾次前去盤問他 官人他不肯說出真情來

越思越想心煩悶 悲 再表素珍上樓門

叩見夫人。旦 罷了，你到來何事？悲 奉老爺之命叫你夫人備辦壽禮，送到徐府而去。旦 知道了，張媽媽你去到廚房做一槃壽桃，你親自送去，要聽我三條。悲 未知乃三條。旦¹¹² 第一條路上不許停留，第二條，不許偷吃壽桃，第三條，你要快去快回。悲 是，老身知道，即忙行去……去行……來到徐府門首嚇門上大叔，我奉范老爺之命，給你家老爺送壽桃而來。徐 快快有請。什 是，老婆子見過老爺。悲 是貧婦見過老爺。徐 罷了，一旁請坐。悲 謝老爺願老爺壽比南山不老松，福如東海永長春。徐 家人賞老媽媽銀子十刃。悲 多謝老爺了。

一見老爺多慈祥 好像乃裏見過面

素珍暗暗來思想 猛想起十八年前事一樁

我在街坊賣兒郎 忽然來了一先生

他賜我銀子五十刃 抱走小兒去扶養

臨別留下鞋一隻 日後可找小兒郎

未知先生可是他 我上前去細問端詳¹¹³

先生我想動問一聲。徐 媽媽動問不敢，但說無妨¹¹⁴。悲 嚇，先生你一身作何事業？徐 卑人一向教書爲業，只有一¹¹⁵子，並非卑人所

¹¹² 原無“旦”字，據義補。

¹¹³ 原寫作“祥”，今正。

¹¹⁴ 原寫作“仿”，今正。

¹¹⁵ “一”字下面原有一“一”字，衍，今刪。

生，但我兒雖非親生，可比親生還要好，對我十分孝順，從小勤奮好學，如今得中了狀元榮歸故里。悲 呀，聽此言來果然不錯，先生我老身要再問一聲。徐 媽媽你儘管直言講來。悲 嚇，先生未知你令郎是怎¹¹⁶樣拾來的？徐 嚇，媽媽說來長也。

十八年前事一樁 往事歷歷¹¹⁷記心上
那年山東鬧災荒 母子四人來逃荒
宿店耽擱無銀刃 無奈街坊賣兒郎
我老漢無兒心煩悶 街坊之上去遊蕩
只見婦人哭悲傷 送他銀子買兒郎
撫養小兒十八年 如今得中狀元郎
悲 聽他一番哀情話 果然不錯半毫分
如今兒子身榮貴 不由老身心歡暢
不如對他真情講 未知他心如何樣

如此說來，先生你還可認得我老身嗎？徐 嚇，媽媽此話從何說起？悲 先生，我就是十八年前在街坊賣兒的婦人張素珍，山東歷城縣，母子三人和侄兒天保外出逃荒，在客店安身，只因口食難度，在街坊賣兒，正遇你先生好人贈我五十刃，將我兒抱去扶養，還留下一隻小鞋叫我好好藏着，日後鞋子成對也好母子相認。徐 嚇，媽媽我來問你小鞋可在。悲 鞋子原在身邊，請先生觀看。徐 待我看來，果然不錯，請問媽媽為何在范府為僕？悲 呀，先生呀，

自從那日別先生 回轉客店遭禍殃

¹¹⁶ “這”字文義不通，今正。

¹¹⁷ 原寫作“瀝瀝”，今正。

滿懷悲痛哭斷腸 痛惜小兒被人掄
屋漏偏逢連夜雨 店中起了大火燒
侄兒失散無處找 拋頭露面來流浪
日間求乞在街坊 夜來棲身在古廟
本當一死赴黃梁¹¹⁸ 只爲三個小兒郎
若得孩兒見一面 雖死黃泉也心安
徐 聽他一番心酸話 鐵石人兒也悲傷
既然我兒親母到 卑人也可把心放
讓他母子來相會 骨肉團聚理應當

徐 嚇，媽媽聽你之言果然不錯，乃你因何爲在范府爲僕？悲 先生嚇，

我乃日街坊來討 路遇轎內狀元郎
他見老身多可憐 留進他府來養老
我見老爺良心好 服侍夫人在閨房
今日奉了老爺命 特到府上送壽桃

徐 如此說來你是我兒生母，快請上坐。悲 多謝先生，蒙先生厚愛，扶養我兒成人，老身我來世做牛做馬再報先生大恩。徐 夫人何必客氣。你的兒子也是我的兒子，待我叫他出來，與你母子相會，內邊我兒哪裏？昇 忽聽爹爹叫上前問分曉，爹爹在上孩兒拜揖。徐 兒嚇，罷了。昇 謝謝爹爹。徐 兒嚇，當初爲父與你說過，你有個親生母親，今日你的生母到了，快快上前相認。昇 母親。悲 我兒。昇 親娘。

¹¹⁸ 赴黃梁，上吊，吊死。（俞氏）

悲 兒嚇。

十八年來夢一場 總道難以見親生

誰知我兒已長大 今日相見喜非常

只要我兒來相見 娘死九泉也無妨

昇 娘呀娘自從孩兒人長大 爹爹與兒親口講

說道孩兒非親生 說我還有親生娘

爲了逃荒走他鄉 拋下孩兒實淒涼

孩兒知道娘親後 暗中流淚哭斷腸

孩兒京都把名揚 到處打聽我親娘

總道難見親娘面 誰知今日見親娘

母子團聚骨肉親 可比枯木再逢春

嚇，母親你爲兒吃盡了千辛萬苦，今日孩兒高中了，你就在府中同享榮華。徐夫人，我兒言之有理，且到內邊去改換衣衫。悲先生且慢，老身多蒙范狀元相救，我理應去說明纔是，天色不早，我該回去了。昇母親孩兒派人送你回去，明日備轎子相接。悲難得我兒這樣孝心。昇家人。什 咱。昇小心送夫人回范府。什是，小人曉得者。

悲 今日母子喜相逢 不由老身心歡懷

多蒙蒼天來保佑 母子相見徐府中

還有小兒一個人 未知何日來相逢

不表張媽路上行 再表臘嬌在房中

張媽徐府去送禮，此刻還未回府門，奴家金臘嬌¹¹⁹配夫范瑞祥，今日徐老爺壽日，我差張媽去送壽桃到此刻還未回來，真真氣死我也。悲 差我送壽禮，急急轉回程，夫人在上老身回來了。旦 張媽媽你為何這長時間才得回來？悲 夫人因老身年老體弱行走較慢，望夫人願諒。旦 哼，年老體弱，行走較慢，你是來做傭人的理應要聽我使喚，要不是我家老爺收留你進府，你就還是一個街上的老乞婆，快去拿參湯來與我吃。悲 是，看來這年輕夫人倒是個薄情之人也。

老爺相救有好心 夫人且是薄情人

如此刻薄又勢力 難怪老爺勿中意

手捧參湯進房去 旦 臘嬌一見便生氣

張媽媽把參湯拿得高點。悲 是。旦 啊唷，介燙個，你莫非想把我舌頭燙傷不成，臘嬌說着把一碗參湯倒在張媽媽臉上。悲 啊唷，痛死我也。

一碗參湯倒臉上 剎¹²⁰時疼痛實難當

本當上前把禮評 難為老爺好心人

若是老爺來知道 夫妻一定要爭吵

我忍氣暫且下樓去 去到房中包紮好

不表張媽情由事 李 再表老夫人在廳堂

兒子已成家我老太婆享榮華，老身李氏十八年前拾得一個兒子，養大成人，考中了頭名狀元，不伊討了個老婆¹²¹，也好給伢范家傳種接代，

¹¹⁹ 前文寫作“金臘”，待考。

¹²⁰ 原寫作“殺”，據義正。

¹²¹ 原寫作“偶”，“偶”字旁有“婆”字，今正。

我老婆子真當開心殺者。

菩薩祖宗真當靈 拾來兒子稱我心

他對我娘真孝順 問冷問暖常關心

我今還要拜觀音 悲 要表張媽暗傷心

老夫人請用參湯。 李 有勞張媽媽了，呀，張媽媽你臉上因何泡得這等模樣？ 悲 因老身不小心被湯水泡傷。 李 張媽媽你年紀大了，以後重活叫丫鬟們去做。 悲 是多謝老夫人。 李 張媽媽因何流淚？ 悲 我沒有哭。 李 張媽媽你手中拿的是什麼？ 悲 嚇，是我兒的一隻鞋子。 李 嘎，那你兒現在何處？ 悲 嚇，老夫人呀，

十八年前鬧災荒 無奈外出去逃荒

口食難度賣兒郎 另一兒被人抱去無下落

苦苦想兒十八年 未知我兒在何方

李 聽他言來暗思忖 莫非我兒他親生

是假是真不明白 看過小鞋便知詳¹²²

張媽媽你把小鞋拿來我看。 悲 請老夫人觀看。 李 待我看來，喔唷，點點不差，果是孩兒的親生母親了。張媽事到如今，我也不來瞞¹²³你了，范瑞祥就是你的親生兒子，就把詳細情況說與他聽。 悲 張媽一聽驚喜萬分。多謝老夫人收留小兒培養成人，使老身永生難忘。 李 張媽媽你我都是自家人了，不必客氣，待我叫出瑞祥母子相會，內邊我兒哪裏？ 祥 來了。母親在上孩兒拜見。 李 罷了，兒呀，快來見過你的親生母親，便把抱來扶養之事說了一遍，然後拿出鞋子折對。 祥

¹²² 原寫作“祥”，據義正。下同。

¹²³ 原寫作“滿”，據義正。

如此不孝兒拜見親娘，嚇我那苦命的娘親嚇，嚇親娘呀，

悲 瑞祥我的親兒嚇，呀兒嚇，

十八年尋兒苦連天 誰知重逢在今天

朝思暮想見兒面 悲喜交加話不斷

祥 母親嚇你自從離了孩兒身 不知我娘如何處存

悲 兒嚇自從你孩兒離娘身 我身邊無有一親人

日間沿街來求討 夜來古廟暫安身

只要能見我兒面 爲娘一死亦甘心

祥 聽娘一番心酸話 不由熱淚湧胸前

娘親受盡千般苦 我做狀元亦枉然

都是孩兒不孝順 害娘吃苦到今天

娘嚇，娘，你吃盡了苦今翻身，如今方爲人上人，今後同享天倫¹²⁴樂，

丫環給老夫人改換衣衫。 祥 娘今日我親生母親在此，望娘不要見

外，常言道生母還是養母大，二個母親都一樣。 李 勿要客氣。丫環

請少夫人下樓。 什 是，請少夫人下樓。 旦 婆婆在上媳婦拜見。 李

起來。 旦 官人請來見禮。 祥 少禮，快去見過我親生母親。 旦 嚇

官人，他是傭人張媽。 李 媳婦，張媽就是狀元的親生之母，快快見

禮。 旦 啊嚇，早勿對者，我道是傭人把他臉面泡傷，叫我如何去

見得。 祥 啣，大膽賤人哪。

罵聲賤人理不當 虐待婆婆罰難容

自認是個官家女 三從¹²⁵四德少禮義

¹²⁴ 原寫作“論”，據義正。

¹²⁵ 原寫作“重”，據義正。下同。

一封休書退娘門 叫你賤人無面皮

旦 嚇官人都是妾身不好，如若我早知如此，就悔不當初，婆婆，媳婦我給你跪下了。

婆婆嚇 前番之事媳婦錯 如此對待你婆婆

都是爹娘寵容我 害你婆婆人難做

三從四德全不懂 難怪官人不理我

只得跪地求婆婆 婆婆你官人前面話好話

悲 你且起來，雖然你不知道是你婆婆，但對待傭人也不能如此。 旦 是，多謝婆婆。媳婦牢記在心是了。 悲 嚇兒嚇，既然媳婦認錯，改過自新，你就原¹²⁶諒他吧 祥 孩兒遵命，看在母親面上就饒¹²⁷了你吧，下次不可。 旦 多謝官人。 李 兒子噲，今喜母子相會，仟¹²⁸裏面吃團圓酒飯起者。 祥 多謝母親了。

十八年來娘受苦 今日母子重相逢

明日上朝見君皇 娘的苦楚告皇上

攙扶娘親進內堂 闔家團聚喜非常

喧到此處停三回 大聚團圓下卷云

昇 昨日母子重相會，今日接母回家來，下官徐昇十八年前母子分離，昨日爹爹壽日，范府差母親送壽桃而來，多蒙養父好心，使我們母子

¹²⁶ 原寫作“願”，據義正。

¹²⁷ 原寫作“繞”，音近而訛，今正。

¹²⁸ 我們。（俞氏）

重逢，可憐娘親爲了我受盡了千辛萬苦，今日母子團聚，理應接我娘親回府，同享榮華也。

多蒙上蒼來保佑 十八年母子重相會

今日備轎去范府 接回娘親奉高堂

三乘轎子緩緩行 什 二班衙役緊緊跟

開鑼喝道多熱鬧 昇 不覺來到范府門

什 門公聽着，我家徐老爺要見范狀元。 什 請少待。啓老爺，外面徐大人要見。 祥 吩咐大開正門，出外迎接，徐大人請。 昇 范大人請。 祥 不知徐大人到府有何貴事？ 昇 范大人嚇，請你叫出我的母親，下官要接他回府。 祥 徐大人你真的說笑話了，我的府中乃會有你的娘親。 昇 范大人你府中的張媽媽就是我的娘親。多蒙大人留進府中，今日一來向大人叩謝留母之恩，二來接我十八年前失散的娘親回府。 祥 徐大人你十八年前失散的母親乃是我的親娘，乃裏會是你大人的母親，何況我們已是母子相認了。 昇 范大人當初我母親是你留進，我應當知恩重報，如今你扣押我娘是何道理？ 祥 徐大人他分明是我的母親，你今來我府中無理取鬧，你莫非心懷不良，要拆¹²⁹散我們母子不成，真真豈有此理。 昇 范瑞祥你身爲狀元，又是朝中忠臣，竟敢搶母奪娘，我與你去見巡按大人評理。 祥 難道我怕你不成，左右起道巡按府。 什 嘎。

祥 可恨徐昇無理心 搶奪我娘不該應

二人共去到巡按府 巡按跟前把理評

¹²⁹ 原寫作“折”，形近而訛，今正。

不表二人路來行 保 要表巡按坐公庭

眼前皆赤子，頭上有青天，下官李天保，只因那年家鄉連遭災荒，父母餓死，我多蒙孀娘收養，帶同二個堂弟一同逃荒他鄉，誰知不測¹³⁰風雲，堂弟被人搶走，另一堂弟賣與別人，我與孀娘耽擱¹³¹在客店，不料店中失火，與孀娘失散，我一路流浪來到京邦，正逢着羅王爺前來遊街，見我喜愛，擡我在他府入贅爲婿，萬歲面試，封我爲二省巡按，我四處找尋打聽孀娘下落，並無消息，嚇孀娘嚇孀娘，未知你身在何方，正叫我天天掛念人也。

當年家鄉遭災荒 四人出外來逃荒

二個堂弟無蹤影 大火失散了孀娘身

多蒙王爺招愛我 萬歲封我巡按治萬民

我幾次派人去尋訪 未知孀娘在何方

慢表天保在思念 二元 要表二個狀元郎

昇 來此公堂待我擊鼓 什 嘎……啓奏大人有人擊鼓 保 如此昇堂，來呀，傳擊鼓人上堂。 什 嘎……擊鼓人上堂。 二元 參見巡按大人。 保 原來二位狀元公免禮，免禮，不知二位駕到所告何人，乃個原告。 祥 我是原告。 昇 我是原告。 保 二位狀元公既然都是原告，總有先後，讓我一個一個問來，徐大人，我看還是你先說。 昇 巡按大人容稟，

家住山東歷城縣 李家莊¹³²上我家門

¹³⁰ 原寫作“澤”，據義正。

¹³¹ 原寫作“欄”，據義正。

¹³² “莊”字旁有“村”字，但前文均寫作“李家莊”。

我母名叫張素珍 家鄉遭災逃出門
只因肚中受飢寒 將我賣到徐家門
昨日繼父大壽日 特將請帖到范府
娘在范家做傭人 代他送禮到我門
繼父與他來相認 母子相逢喜歡胸
今日轎子接娘親 誰知狀元無理性
扣押我娘不放行 還說是他親娘親
有意與我尋開心 還望大人判斷明

保¹³³ 如此說來張素珍就是你的母親，范狀元這就是你的不對了。既是徐狀元的母親理應奉送歸他。祥 大人你不要聽他胡說，難道我天子門生會做此事。保 既然如此你也說你的道理。祥 巡按大人聽着，

下官出生山東城 歷城縣內李家村
我母三字張素珍 家鄉遇荒逃出門

昇 這個我早已說過，大人你不要聽他胡說。保 讓他講下去。

祥 只因難以¹³⁴過光陰 招商店內暫安身
乃日范員外收房鈿 員外將我搶回門
我在范家十八春 養父將我養成人
乃日趕考中狀元 路過老人苦淒慘
跪倒我的轎面前 我霎時眼花頭發昏
我見老人實可憐 將她留進在府門
保 既然留進你府門 後來何故母子認

³³ 原無此字，今補。

³⁴ 原寫作“己”，今正。

祥 只因思兒娘悲傷 對着小鞋暗淚淋

養母再三來盤問 我娘流淚訴哀情

原來是我親生母 因此後堂母子認

保 如此說來你也是張素珍的親生，你將鞋子拿來，我看。 昇 大人

我也有一隻鞋子。 保 二位不必爭論，且到內堂息息，候本部判斷。

祥昇 多謝大人。 保 嚇呀，且住，莫非二個狀元就是我的二個雙胞胎的堂弟不成，這……這又太巧合了。

聽他言來心暗喜 原來孀娘在此地

二位狀元是堂弟 爭奪親娘我心歡喜

孀娘果然好福氣 有二個孝順狀元子

我把孀娘接府裏 詳細情況問問伊

不錯既然孀娘已到，我不免去接他前來，左右備轎一乘去范府接張老夫人到來。 什 是。乃衙役不到一刻辰光便將張夫人接到。 什 報張老夫人接到。 保 打轎上來。 什 是。 悲 大人在上民婦叩見。 保 老夫人快快請起。 悲 不知大人叫我民婦到來何事。 保 老夫人今日二位狀元前來公堂告狀，都道你是他的親生母親，下官難以判斷，所以請你到來，你去認來，哪個是你的親生兒子？ 悲 啓稟大人二個都是民婦的親生兒子。 保 老夫人既然二個狀元都是你的親生兒子，你又何故會落在他的府中？ 悲 大人容稟，

老身名叫張素珍 家住山東歷城縣

外出逃荒住客店 小兒飢餓哭連連

爲活命忍痛小兒賣 又一小兒被人搶

失散侄兒小天保 到處找來無尋覓

二兒今日來相逢 多謝天上菩薩保

保 啊呀，聽他言來，果然是孀娘來了，孀娘在上受侄兒一拜。悲 呀，你口稱孀娘，倒是何人？保 孀娘，我是天保。悲 呀，原來你是天保。保 孀娘。悲 侄兒。保 孀娘呀……

跪在地上孀娘叫 且聽天保說端詳

自從那日失散後 我一路求乞到京邦

幸虧王爺來擡愛 他府入贅作悝憐

去到皇上達奏本 皇上封我為巡按

四處尋找你孀娘 毫無音訊暗悲傷

總道今世無希望 誰知相逢在今朝

悲 嚇，侄兒，常言道皇天不負苦心人，今日總算我們闔家團圓¹³⁵了，真真謝天謝地，未知我二兒人在何處。保 堂弟都在後堂，待我叫他們出來，二位狀元公請。二元 母親。悲 兒呀，你們二人不必爭論，你們二人都是我的親生兒子，你們是雙胞胎兄弟，今日你二在公堂上奪母，都是對娘的一片孝心，這位巡按大人是你二的堂兄，就是為娘在十八年前失散的侄子，你們快快去見過堂兄。二元 孩兒遵命，堂兄請。保 二位堂弟請，嚇，孀娘今日我們闔家團聚，真是菩薩保佑，謝天謝地，等明日早朝我與堂弟奏明聖上，回家祭祖。悲 侄兒言之有理。保 如此侄兒內備酒筵喝團圓酒熱鬧一番便了。

後堂擺酒酒多熱鬧 母子相逢喜非常

¹³⁵ 原寫作“園”，今正。

悲歡離合樂陶陶¹³⁶ 三人斛酒敬高堂

四人談到黃昏後 各自回府寫表章

保 青天紅日東昇起 車馬轎子上早朝

三呼萬歲金階上 跪在丹墀¹³⁷奏君皇

臣李天保有本啓奏。 皇 愛卿奏來。 保 啓奏萬歲，臣因那年家鄉鬧荒，由孀娘張素珍帶堂弟出外逃荒，後來四人失散，孀娘受盡了千辛萬苦，今日才得團圓，二個堂弟徐昇與范瑞祥已與孀娘母子相認，望萬歲定奪。 皇 愛卿所奏寡人俱已明白，張素珍爲人可佳，賢德無雙，封爲重義夫人，欽賜鳳冠霞佩，三位愛卿忠孝節義官封二品，徐國棟養子有功，有仁義之心，官封七品侍郎，李氏扶養范卿有功，封爲真節夫人，王雲霞封爲賢德夫人，金臘嬌爲人勢力刻薄，本當議罪，難爲他有心悔改，從寬發落，既往不咎¹³⁸，封爲一品夫人，各賜鳳冠霞佩，奉旨回家祭祖，事畢回京奉職，欽旨謝恩。

三官 萬歲萬萬歲。

三人謝恩出朝庭 什 文武官員齊送行

鳴鑼喝道多熱鬧 昇 威風凜凜往前行

祥 一路行程不停留 不覺已到府牆門

母親在上孩兒叩見。 李 兒呀，罷了。 昇 孩兒拜見爹爹。 徐 兒嚇，罷了。你今日早朝歸來，未知萬歲是否准奏。 昇 爹爹萬歲欽賜官帶，官封你七品侍郎，請爹爹穿十八起來。 祥 嚇母親，萬歲欽賜你鳳冠

¹³⁶ 原寫作“淘淘”，據義正。

¹³⁷ 原寫作“旦墀”，疑為“丹墀”之誤。今正。

¹³⁸ 原寫作“究”，據義正。

霞佩，請母親穿十八起來。李 哈……做人總要良心好，拾來兒子比親生還要好，今後我要在後堂日日念經念佛，禮拜觀音菩薩。保 孀娘多蒙皇上恩賜，闔家團聚，共享實貴。悲 二個兒子各生一子一女，接續後代，官登及第，父子同朝爲官，李氏范氏堅心修道，齋僧佈施，廣積善德，勸化世人，功德無量，壽主百歲，無疾而終，玉旨一道命金童玉女接引西方，位列仙班。

雙狀元寶卷前後二本四回，恩怨分明，孝義雙全，蘭桂芬芳，金玉滿堂，大敘¹³⁹團圓，拜謝皇恩。

雙狀元寶卷喧完全 古鏡重磨照大千
天保忠心多孝道 官爲巡按立朝綱
瑞祥待母多賢孝 官封及第保皇朝
徐昇對母盡孝心 狀元及第耀門庭
徐國棟爲人多善心 官封七品伴聖君
素珍爲人多賢良 苦盡甜來人上人
范老夫人靜修行 童女接行上西天
徐氏大娘心本善 孝感¹⁴⁰動天也上天
爲人總要良心好 世界頭上有青天
爲人要有善德心 菩薩祖宗有感應
爲人想積無量福 慈善總會常光臨
若能積得無量福 千秋萬代子孫賢
喧完一本狀元卷 勝過多少阿彌陀

³⁹ 寫作“序”，音近而訛，今正。

⁴⁰ 原寫作“走”，疑爲“感”之略字，下同。

今日夜喧完狀元卷 一年四季保平安

請注意 修改本¹⁴¹

十二月撒鮮花

正月 才香花

二 銀杏花

三 碧桃

四 薔薇

五 石榴

六 白荷

七 鳳仙

八 金桂

九 黃菊

十 芙蓉花

十一 莉芝

十二 臘梅

團圓花

¹⁴¹ 因爲字寫得不好，在此向讀者道歉。(俞氏)。

双状元宝卷
上集



双状元宝卷

卷首

给诸友

上田望先生

情弟俞邦民敬

岁次丙戌年八月廿二日

双状元宝卷初展开

善男信女虔诚听

恭请神圣降坛来

地福延寿保平安

恭闻双状元宝卷出在大宋仁宗年间。提表山东历

城县李家庄上。且说一人。离乡背井去逃荒。一路

之上苦难熬。苦命张素珍。不幸家乡连遭灾荒。

云婆去死。丈夫病亡。遗下了一对双胞胎儿郎。还有

一个侄儿取名天保。可怜他也父母双亡。素珍我把

他带在身边。可怜家乡饥寒交迫。难以度日。

一家四口。只得逃荒。在一路之上受尽了多少苦难。

思想起来好不悲伤人也。

俺娘我肚子好饿呀

俺儿双々来啼哭

可怜你刚出娘胎一二月另

你未出娘胎爹就亡

走一步来退二步

饥寒交迫身无衣力

一对孩儿无奶吃

只得带儿逃出外

只为公婆丈夫亡

拖儿带女去逃荒

受尽苦楚何谁告

怪儿饥饿泪汪汪

异乡漂泊来流浪

家多饥荒日难熬

受尽风霜苦心伤

又见侄儿饿得埋

不由为娘痛心肠

受尽饥寒苦气旺

无爹孩儿苦悲伤

莫非饿死在路上

只见前面有客商

免得冻坏孩儿身

要表金山在店堂

不表四人来投宿

还是暂且投宿店

抬头一路何前望

天涯茫茫何处走

高卦一盏灯远照四方人

咱家非别金山便是

在京路口

都开一升饭店

我付勿出近未生意清淡

才话实介落起看未要吃西北风者

我金山生来命苦

叔々带我到京都

从小爹娘早亡故

开升饭店生意无

不表金山来叹苦

内边可有店家

未到便是个女客人请进女客人可是未投宿

的吗正是店家可有便宜房间有依看这房

间又便宜又清爽这间到是好的介来女客人

要吃啥个酒饭呀店家你还是给我讨一杯开水

现在暂时饭不要全晓得者俺娘我肚子好饿

呀吓天保这开水你先喝了吧等下再给你弄

点吃的付生是二生哇呀呀见二个孩儿哭叫不付

这叫我如何是好也

侄儿饥饿叫不付

这便叫我如何好

常言道鱼儿无水难活命

不便将儿来卖掉

非是为娘心肠娘

儿是娘亲心头肉

若不将儿来卖掉

忍痛无奈将儿卖

扶养我儿来长大

打定主意侄儿叫

再表素珍到店中

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

来者今朝运气好客人已

婢娘你叫我何事^悲 天保你把弟之抱着、婢娘我
到街上去给你们买点吃的回来^天 是婢娘你要早
点回来呀

见婢娘抱弟出店门^堂

不由我天保泪汪汪

只因我父母早伤亡

蒙婢娘收留我孤儿郎

婢娘待我似亲娘^生

恩重如山永难忘

不表天保在店堂

再表素珍去街上

怀中抱着小儿郎

两行泪珠满胸膛

非是娘将儿抛

娘是为救小儿郎

双膝跪在大街上

哭儿二连声叫

不表素珍哭儿郎

再表徐国栋事一椿^章

老汉徐国栋安人徐氏、年纪半百、并无儿女、想我教
书为业、到也过得清静日子、今日我心中烦闷、不免
去到街坊游玩一翻便了

想我年纪半百另

未有一个传后根

徐氏安人贤惠

可怜到老无后人

行走已到街坊上

见哭跪地流泪为何因

吓这位大嫂你不是本地人氏、你家住乃里姓什名谁
因何流泪请道其祥^悲 吓先生吓

家住山东历城县

李家庄上姓张人

三字名叫张素珍

只因逃荒来此城

只因家乡遭灾荒

公婆丈夫命归阴

生下一对双胞胎

母子三人苦伶仃

还有侄儿小天保

他父母双亡我收领

只为家乡难度日

出外逃荒离家门

离乡背井到此来

四人耽搁客店存

小儿挨饿哭连声

我只得忍痛卖儿身

听得一翻伤心话

不由卑人酸心酸

我到有个二全策

未知大嫂可依允

吓大嫂你也不必悲伤、依我之见、你将小儿给我、我将
他扶养长大、日后若有出头之日、仍可母子团聚、不

知你大嫂意下如何^悲 先生你有如此好心、我志恩不

尽、不知先生高姓大名^徐 卑人徐国栋、我看你将小孩

的鞋子留下一只、日后鞋子成双、就可母子相会

如此多谢恩、公请受我一拜^徐 大嫂不必如此快

起来、我这里有银子五十两、你们母子暂且度日

多谢先生好心、我拜别去也

多蒙先生有好心

送我五十两雪花银

忍痛将儿来抛下

未知何日再团圆

但愿我儿能成名

母子相会也高兴

拜別先生回店去

回头再望小儿身

一見大嫂远去

手抱小儿回家门

母子分离多难过

铁石人儿也心酸

日后小儿长成

定証他们母子认

不表先生回家转

另表范家一段情

旧年四十九岁今年五十岁、卑人范忠、販賣珠

宝为业、屋里头家财突裕、可惜没有儿子、也是

空稀、都怪倚老太婆肚皮勿张气、连奈头一颗南

瓜子都没有、老头子依来吟話舍西、我話依小

人勿会生、要死快冬我、实依勿会生、我勿嫁不依介

时光试过者、实会生个、吓照依話来还是泡过茶叶

汁水淡者、死老头吟我实骗依个、吓老太婆吓

老太婆依勿正经

别人听见难为情

还道依娘家有情人

我来帶做烏主精

老头依勿要气来生

老夫妻开之玩笑是勿要紧

你我都有丰百另

我个脾气依知悻

怪我肚皮勿悻气

害依元有后代根

我日、夜、拜观音

菩萨一定会显灵

天送我一个其壽子

不倚范家传后根

老太婆忌叫依诚心诚意、观音菩萨一定会保佑你个

一定会送个儿子来做种个、闲話少講金山个房租細

有好几个月者、我还走帶过去、起收房租細起是者

范忠急之路来行

不表范忠去店中

再表金山管店门

生億兴隆先吃后空、生億清淡肚皮餓塌、我金山

便是、好容易来得个客人、我到生億来者心里高兴

得高兴、勿晓得是个穷光蛋妇人、伊实外出逃荒来

个、连飯細都勿着扛、我真想得倒霉杀者

今朝客人进店来

金山连忙笑颜开

走上前去忙接待

两泪汪汪哭起来

可怜他、女流之辈好悲哀

伊話山东逃荒来

不表金山来自叹

我也勿好去难为

喂金山依葛二日生億好勿好、

要表范忠进店来

啞嘴范员外生億奈

葛好得来、你看房间都空着、范员外依个房租細

再不我欠二日、等我生億好些一定送到你府上

好个金山依房細元有、还老婆讨、小人都生出帶

者、依房細回鈔勿出、我小人将好个、吓员外这小人

女客人个、不是我金山个、管依客人勿客人、啞相

貌介好帶、眼睛大碌碌、鼻头高松松、一定是个出山貨

让我还是抱得走金 员外这是别人的孩子幼勿得个
金山依放手今朝小孩不我房租細我都勿要者
喂员外这小孩是我的弟之……你这么可以抱去
还我弟之……哈个弟之勿弟之……我喜欢还实抱得回去
天 还我弟之……啊吓不好了

一见弟之被抱走

不由天保痛心头

婢娘街上未回轉

这种事情天少有

心乱如麻如何好

婢娘面前这交代

坐在地上哀之哭

素珍回店问情由

天保你因何坐在地上啼哭

吓婢娘呀你到街上

去的时候店里来了一个老头子他不问情由将我弟之

抢走了我上前去夺只夺得一只鞋子悲 什么你弟之被

人抢去了天 抢去了悲 啊吓天

婢娘醒来……

悲 听此言来心似绞

不由素珍痛心伤

一个儿子已卖掉

一个抢去在何方

苍天为何无公道

我走头无路如何好

出外逃荒为儿郎

誰知反将儿来抛

莫非命中来注定

罚我素珍元儿郎

我今不见亲生儿

只留下小鞋有一双

素珍思儿哀之哭

金山上未报事忙

勿对者店堂里起火者干快逃出去否则要烧杀个
婢娘……你在那里啊吓不好了

大火熊之烧店堂

不见婢娘心内焦

莫非婢娘被火烧

叫我天保如何好

不表天保婢娘找

再表素珍找天保

不见天保小儿郎

不由素珍心发慌

大火失散小天保

人地生疏何处找

天乃为何苍天不公道

今世罚我大难遭

本多我一死了残生

怕只怕孩儿长大把娘找

还有侄儿小天保

无娘的孩儿更悲伤

只得为儿活下去

天涯茫茫何处找

不表素珍心悲痛

要表范忠回到家

老太婆假快来看多少有趣个小人带丑 假个死老头

这个小人一定是假外头轧婢头轧出来个范 借道我不

会生小人借到外头起生个野种回来范 老太婆依勿

可瞎三话四我实讨房細起金山房細付勿出我

见有个小人连忙抱得居来者反云你仇子无有真 养

伊大来好不你传种接代个丑 老太公此话是正堂真 的

吓暗这个小人相貌介好带还有些像我个范 老太

婆我抱来个小孩是勿会差个依看伊雪白净嫩

头皮因之必中状元。以后一定会出山个。究得婉猪吃头。
腐渣个。咳我话错者。是头腐化加蛋化汤。早对者
让伊快些长大起来。不伊读书考状元。我做依也好
享福者。老太公这个小人千万不可给别人晓得。叫
话伊自生个。老太婆依肚皮勿大奈介生得出米。

老太公办法有个。我小肚里花絮塞进去。依做别
人讲起来。倚老太婆担身者。老太婆依个办法好
个。邻舍里红鸭子分个。老头子倚不伊取个舍名字。

老太婆吟我老早想好带者。不伊取个范瑞祥。
好个这个名字吉利个。咳老头子。这鞋子我
起芒好等伊大起来。才话良心好个。倚勿话出来。才

话良心坏个。这鞋子拿出来不伊看。也好挽个伊
个脚底板。老太婆依个说话勿错。

老太婆办法真当灵。我心里想之重开心。

只因自己不会小孩生。拾个小人传后根。

只要待伊如亲生。勿怕日后会变心。

我同老太婆二个人。精心扶养这小人。

将来儿子来成名。荣华富贵享不尽。

光阴如箭日月梭。转眼已是十六春。

不表范家养儿性。要表徐家事一端。

一粒明珠土内芒。未知何日放毫光。小生徐昇爹之
徐国栋。母亲早已亡故。爹之扶养小生长大成人。
想我每日勤读诗书。实指望京都提名。想今岁
乃是太岁之年。欲想上京赴考。不免去禀明爹之
便了。

徐昇独坐在书房。

男儿立志在四方。

若得一官并半职。

报答老父养育恩。

将身移步去厅堂。

想起功名挂胸膛。

理应奋发上京邦。

徐家祖上也荣光。

为人之子理应当。

另表国栋思儿郎。

卑人徐国栋。十六年前。我到街上散闷。适逢张素珍

卖儿。我见他十分可怜。赠他五十刀银子。将小儿抱回家

中。取名徐昇。至今有十六岁了。我儿从小聪明好学。

勤读诗书。想今岁乃是太岁之年。理应叫他上京赴考。

未知他亲生母亲身落何处。趁我儿上京之时。与他说

明。若他一举成名。就可差人四处寻找。以可母子重逢也。

想起我儿小徐昇。其中情由不知情。

他总道卑人是亲生。我要将情由说他所。

趁他此翻上京城。知道家乡还有亲母亲。

以翻上京去赶考。必定能中状元郎。

不表国特自安排 昇 要表徐昇厅堂进

爹在上孩儿拜见 徐 儿吓你不在书房到来何事 昇 吓

爹想今岁不逢大比之年孩儿欲要上京赶考 徐 吓儿

呀为父也有些意吓儿呀想你已经长大成人了为父有事

要与你说明 昇 爹之语讲 徐 儿吓你不是为父的亲爹

吓爹之孩儿自小到大是爹娘一手养大此言从何而讲

吓儿吓内中情由且听我一言道来

十六年前中秋日

你娘带你来逃荒

你家本住山东城

历城县中李家庄

乃年家多困灾荒

你父一命来病亡

娘亲生下你双胞胎

还带侄儿小天保

家中灾荒难度日

孤儿寡母实悲伤

拉扯你们来逃荒

一路求乞到京邦

为父出外去游春

见你母抱你跪地哭悲伤

我赠他银子五十两

你母说是卖儿为救命三条

我就抱你回到家

扶养我儿到今朝

听此言来泪满胸

真不叫人痛心伤

我道是徐家生来徐家养

且说我的生父早夭亡

问爹之我的亲娘在何方

孩儿要把亲娘找

我儿不必泪汪汪

天涯茫茫何处找

只要你功名来成就

四处打听亲娘找

问爹之娘亲有何物留下

要你爹之说不晓

爹之你对我真情讲

我养育之恩永不忘

留下一只小红鞋

为父紧之来收上

对着小鞋成双对

就是你的亲生娘

一见鞋子二泪流

只见鞋子不见娘

娘亲不知何处去

无娘孩子实凄凉

娘为孩儿受尽苦

孩儿思娘痛断肠

孩儿若有出头日

定要孝敬侍奉娘

我儿不必太悲伤

且听为父把话讲

我本不把真情讲

只因你母太凄凉

若是孩儿来高中

设法寻找你亲娘

若是母子能相逢

为父也可放心怀

金玉良言记心上

养育之恩永难忘

今日孩儿上京邦

要夺金榜状元郎

拜别爹之上京去

望爹保重自安康

难得孩儿来孝顺

卑人也可放宽心

但说上天来保佑

母子团聚乐逍遥

不表徐氏父子情

再表范家事一桩

小生范端祥爹之范忠母亲徐氏爹娘不生男

单生小生一人。不料爹文以亡。想我每日书房攻书。只望
日后成名。想今岁大比之年。我欲想上京赴考。不免
到内堂去禀明母亲知道便了。

爹娘爱我掌上珠 精心扶养我十六春
十年寒窗助攻读 金榜提名天下闻
一来报答文母恩 二来范家跃门庭
不表瑞祥到内堂 要表李氏思儿郎

转眼一去十六春。领来仇子养成人。老身李氏想十六
年前老头子收房。抱来了一个仇子。取名瑞祥。
现以十六岁了。生得聪明伶俐。终日在书房攻书。

对侍三老文母十分贤孝。可惜倚老头子已经病亡。

母亲在上孩儿拜揖。嗟。咱宝贝儿子你不在书房到

来何事。母亲大比之年。到儿欲想去上京赴考。特

来禀明母亲知道。好。偌仇子要上京赴考。做娘个

当然高兴。为娘与你准备行装。且听我一言。道来

你今上京干功名。为娘日夜挂在心

路上切勿多耽行。早投宿店早安身

死儿此去高官做。为娘在家听佳音

你有官无官早回程。切勿行留在京城

今日母亲来分别。未知何日再相会

劝娘勿必挂在心。望娘在家勿保重

倘若孩儿头名中。荣宗叔祖换门庭

母亲吓。只怕去京路途远。塌出考坊一坊空

儿吓。想我家有传家之宝。夜明珠一粒。如若功名塔

出。你若要向皇上献上这颗明珠。也可做一个献宝

状元。多谢母亲孩儿拜别去也

拜别堂上老娘亲。要往京城走一程

望娘在家多保重。孩儿在外也放心

只见我儿出门庭。不由老娘暗伤心

虽然不是我亲生。要比亲生还孝顺

我儿此翻京都去。献宝状元稳有份

不表夫人盼儿身。再表素珍一段情

再表十六年前张素珍。儿子丢失。但儿失散。一直流

落街头。白天沿街求乞。夜宿破庙安身。实指望

见到亲生儿子一面。就是死了也瞑目也

想起十六年前心酸事。佳事历文记心间

儿吓。娘受苦辛你可知。盼儿盼了十六春

望儿望得两眼穿。想儿想得肝肠断

但死苍天来保佑。赐我母子重相见

吓。天那。是否给我母子相会一面。若能得见我儿

面我死九泉也瞑目了、可怜我身上寒冷、腹中飢餓、步高步低路途难行、来至街上、可怜我飢餓难当、元余只好双膝跪地、求乞便了

哀求

开店开厂老板门

发财铜钱丢几文

保佑出门顺利保平安、顺风驶舵保太平

保佑四面贵人相照应、八方财宝进门庭

保佑生意兴隆多茂盛、一年四季赚黄金

哀求吃素念佛太々们、慈悲铜钱丢几文

保佑福也来寿也来、寿比南山老寿星

保佑眼目清亮脚身健、好比松柏永长青

保佑代々儿孙做公卿、儿孙满堂闹盈盈

保佑年纪活到九十九、还勿约不慌一百念岁做大寿

哀求贤良好心大娘们、贤德铜钱丢几文

救々我个落难人、保佑夫妻和睦性文深

保佑早生贵子跳龙门、白头到老福寿全

哀求漂々亮々姑娘们、加班铜钱丢几文

保佑有福有寿多福份、配个老板做夫人

哀求年青力壮叔伯们、救々我个落难人

辛苦铜钱丢几文、保佑一年四季赚黄金

哀求读书赶考官々们、聪明智慧铜钱丢几文

保佑连科高中步々进、大学考进总督定

保佑做个中央干部接班人、轿车进出跃门庭

保佑长命百岁永长春、合家团聚笑盈盈

保佑种田下地叔伯们、辛苦铜钱丢几文

保佑身体健康福寿全、田稻年年好收成

今我讨得铜钱有千文、谢々各位善心人

未知后事如何样、要表天保一个人

叨到此处打头回、赴考成名下卷出

双状元宝卷 卷二

小生天保家住山东历城县、父母早已亡故、只因乃年

灾荒、娼娘带我和二个堂弟、出外逃荒、无处投奔、以

生存、娼娘去街坊卖弟救命、谁知另一堂弟又被别人

抢走、我与娼娘伤心之极、不料店中失火、荒忙逃命

在逃命之中、我与娼娘失散、从此杳无音信、可怜我

孤单一人、一路求乞、今我已到京城、肚中飢餓难当、

只愿好去求讨些便了

不表天保去求讨、要表王爷出京城

赤胆忠心保君皇、定国山河立朝纲、李藩罗定方

官居平南王之职、夫人郝氏、不生男、单生一女、在

年十六生得十分玲瓏、尚未受茶、只因无有相好的才郎佳婿故而我家中忧虑、前去到街坊闲逛、反便了

王爺移步到街坊

来往人多闹非常

京城之中好风光

观着街景像天堂

不表王爺游街坊

再表天保在街上

可怜我衣衫寒冷有且可

肚中饥饿实难当

我虽有文章肚内空

无人抬举也是枉

今日来到京城上

讨些钱文过时光

不表天保在街上

要表王爺观见在心上

吓呀有耳听有人叫饥饿寒冷待我前去看来呀既

来是一个年青后生、见他人品秀丽、一表人材、不像落

泊之人、为何为在街坊求乞、待我问他、一问、家人

你去叫这个求乞人过来见我、是、哈、哈、个后生、求乞

人王爺叫你见过王爺、你要小心、是、王爺在上求

乞人叩见王爺、求乞人你家那里、姓什名谁、乞道其

样、细之说来、如此王爺答禀

我双膝跪在地埃里

二禀告王爺听

小生家住山东历城县

李家庄上我家门

李天保三字小生名

父母早已命归阴

灵蒙婶娘有好心

扶养我小生长成人

幼年曾把四书读

只因家乡遭灾情

婶娘带我堂弟来逃命

金山饭店暂安身

身边没有半文银

婶娘卖儿救我命

一个堂弟被人抢

店中失火都逃命

以此婶娘来失散

我无法求乞到京城

望王爺发慈悲心

救我小生一条命

听了书生诉哀情

不由老夫心思忖

他虽是一个乞丐人

也是攻读诗书文

他父母双双都亡故

也是一个可怜人

多亏他婶娘好心人

扶养他攻读长成人

家乡遭灾荒来逃生

眉清目秀像贵人

我见他心中多喜爱

不如与我做螟蛉

我还是对他直言说

不知他心若何能

吓天保个藩见你喜爱、我有一女年方十六尚未联姻

你在我府入赘、找你为婿、我去到皇上后奏、封你官

职、未知你意下如何、灵蒙王爺喜爱、小生无不尊

命、好如此家人备轿回府

啊

一路之上多热闹

欢喜之回府门

王爺进府坐高庭

请出夫人说分明

王爺即忙请出夫人、将始末情由与夫人说明

夫人听了十分喜爱，就与王爺说道：吓王爺你快去禀明圣上，封他官职，好与我女二下完婚。是夫人言之有理，下官就此上朝，来至朝堂，俯伏金阶，臣等南王罗定方有本启奏。奏来。启奏万岁，臣出京游街，路遇李天保，家乡遭荒，逃身落泊，一路求乞来京，我见他才貌双全，人材出众，收留他为螟蛉子，招赘东床，望吾皇封他官职，与我女完婚。望吾皇准奏。旨下：依卿所奏。寡人明白。封李天保为二省巡按，退班。万岁万岁万万岁。

封儿为巡按

就此回家把礼交

即速回到府门庭

按排花烛结联姻

王爺回到府门，就吩咐家人上挂灯结彩，下红毡铺地点，起龙凤花烛，与姑爷小姐两下完婚。传宾相：来者，我做宾相，喉咙勿响，看见鱼肉二只，眼睛茶亮。王爺在上，宾相叩头。起来，你好言赞上重，有赏。晓得者，一只金凤街上游，一只凤凰在里头，有一个仙人来作伐，双双配结佳偶。请出新人新郎入华堂，请拜。

左边立着新贵人

右边立着女千金

四拜天来四拜地

再拜福寿三星

请出南山老寿翁

北福地寿免灾星

祝寿公到华堂

手拿福杖祝红毡

灵福寿多男子

日富曰贵曰安康

夫妻双双同到老

早生贵子跳龙门

祝罢一番身进内

牵红入帐进洞房

堂上摆起满堂沈

众客饮酒闹堂々

新人见礼来谢沈

众人称赞女红毡

各人席散回家去

要表夫妻新婚情

吓官人我与你今日是新婚之夜，理应欢之喜之，见你双眉不展，且是为何？娘子我多蒙王爺喜爱，作为螟蛉，招赘你家为婿，蒙万岁封我二省巡按，吓娘子但我还有一桩心事未了，故而心中忧闷。未知官人有何心忧之事，说与我为妻知道。吓娘子吓。

只因我幼年父母早亡，多蒙婢娘扶养成，今日我身虽荣贵，不知婢娘在何方，养育之恩定要报，故而心中闷沉沉，因此真情说你所，叫我双眼泪纷纷，养育之恩不忘情，劝官人不必悲心间，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

只要官人良心好，婢娘一定能找到。

快派家人去察訪

娘子果然有才情

多亏娘子来提醒

多蒙王爷有好心

皇上封我为巡按

上报皇上社稷安宇

一庭话文不细表

奉旨治万民执法不容情下官李天保家住山东历

城县父母早亡只因那年灾荒婢娘带我和二个堂

弟出外逃荒无处投奔难以生存婢娘去到街坊

卖弟救命谁知另一堂弟也被人抢走我与婢娘伤心

之際不料店中失火慌忙逃命在逃命之中我与婢

娘失散从此查无音信我一路求乞来到京都有一罗

王爷前来游街见我喜爱招我在他府入赘为婿

去奏闻圣上万岁封我为二省巡按我几次派人去打

听婢娘下落叫我下官挂念人也

想起婢娘好悲伤

养育之恩永难忘

未知婢娘在何方

不表天保思念事

打听婢娘在何方

天保我像蒙怜人

我二照办去执行

找我在府入赘为婿怜

我要忠心治万民

下治万民定太平

次日巡按上任行

未知流落在何方

天保我永远记心上

云叫下官挂心腔

另表考坊事一桩

奉旨考奇才举子进场来三月桃花红九月菊花黄

三坊文字瑞特选状元郎下官翰林院吉天祥奉

旨并科取才左右大开贡院门考生们各分天地字

号什哩生员天字号徐昇学生地字号贾油光

地字号下去天字号上堂领对在对在听着雪压

竹梢头落地对就了风吹荷叶背朝天好奇才

龙虎日看榜谢太师地字号上未领对读老太

师吃牛肉咳出题目你听着前面一只雌鸡后面

一只雄鸡进来以进起好像一对夫妻来带者前头

一只雌狗后头一只雄狗进来进起好像老太师个娘

舅文字下流赶出贡门喂是杀乃个娘做我推

出者三年勿来考考坊出青草回去卖大饼油条

举子文章好上殿奏君皇左右启道上朝

祥走呀

离别娘亲上京城

身边带着传家宝

不觉来到京地

小哥哥面前何如此热闹

郎前面是老太师个轿子

旨吓想我果然来迟了二步

但见早到帝皇城

娘的话儿记心上

大声吵闹为何因

今朝王爺来终选考状元

去上京复

塔出了考坊这便如

何是好吓有了母亲有言在先。如若塔出考场、可将夜明珠送上。待我还是拦轿。喂你这后生因何拦轿。我要面见太师有要事相告。你且站着。太师有请。何事。太师有一后生有要事要面见太师。住轿。你书生何故拦轿。吓太师爷吓。只因小生家中路途遥远。我未迟了一步。塔出考场。误了功名。今有传家之宝夜明珠选与皇上。吓瓦来如此。好老夫明日一早带你上朝。见过万岁。当面试才华。多谢太师爷了。

瑞祥一听喜心苗 明日一早去上朝

凤阁龙楼万丈千秋。寡人大宋仁宗是也。今乃大朝日。朝内侍传旨。宣放龙门。噫万岁有旨。宣放龙门。臣等见驾。万岁。众卿平身。有事奏上。无事退班。臣吉天祥有本启奏。奏来。臣启万岁。臣逢旨选考人才。今有举子文章呈上。读万岁龙目观看。待寡人看来。噫。妙呀。果然文章锦绣秀。臣还有本奏。奏上来。臣启万岁。今有范忠之子范瑞祥。因家乡路途遥远。未迟了一步。塔出了考场。现有传家之宝夜明珠一颗。献与皇上。万岁何不叫他金殿面试文才。封他官职。爱卿所奏无差。内侍传旨。命范瑞祥官带。

上殿。万岁有旨。范瑞祥官带上殿。领旨。范瑞祥见驾。万岁。范爱卿平身。谢万岁。范爱卿因你路途遥远。塔出考场。寡人念你献宝有功。赐你金殿面试文章。臣领旨。读万岁龙目观看。待寡人看来。爱卿文章果然不错。内侍传旨。命徐昇官带上殿。万岁有旨。命徐昇官带上殿。领旨。臣徐昇见驾。万岁。爱卿平身。徐范二卿过来听封。臣受封。徐爱卿封为新科状元。范爱卿封为献宝状元。钦者谢恩。万岁万岁万万岁。

得中状元出京城 回家祭祖跃门庭

鸣锣开道。灵显赫。前呼后拥。闹盈盈。旗牌执事。分左右。八名校尉。紧跟随。队伍到了城门口。文武官员。送出京。不表兄弟荣跃事。再表吏部王大人。赤胆忠心。保我主。锦绣秀龙庭。老夫王。文林官。居吏部之职。夫人早年亡故。生下一女。取名云霞。想我儿年方二八。尚未受茶。只为女儿终身大事。好叫我老夫挂念人也。

只为女儿终身事 老夫时刻挂心间
虽然女儿多贤孝 没有门当户对人

若是揀个乘龙婿

老夫也可放宽心

不表文林心内想

要表状元参拜情

报新科状元徐昇前来参拜 命他进见 是新科

状元进教见 恩师大人在上 门生徐昇大礼相见 免

礼一旁坐下 谢太师告坐了 状元公想你年少登科

可敬可喜 一托圣上洪福 二托恩师之福也 乃里

状元公自福有余 未知状元公姓什名谁 家住那里

恩师大人容禀

家住河南太平村

府居就是徐家门

家名就叫徐国栋

徐昇就是我的名

状元你是河南人

家中大小有几口

门生家中无别人

只有父子二个人

我又教书是先生

扶养门生长成人

未知你可有妻房配

老夫面前说明白

我日夜攻读在芸窗

对案三字莫谈讲

一听此言心花开

我见状元心喜爱

还是直言对他说

可与我女亲来配

状元公老夫有言难启齿

恩师直谈无妨 状元公

老夫家有一女 年方二八 尚未联姻 我想把女儿终身

许配与你 不知状元公意下如何 吓恩师小姐乃金

枝玉叶门生岂能高攀 状元公你乃是天子门生 老夫

十分喜爱 这也可说是门当户对 如此多谢恩师大

人 现在我我要改口相称了 如此岳父大人在上 小婿

徐昇叩见 哈哈贤婿罢了 想今日乃是黄道吉日 你

到内边改换衣衫 就在府中拜完花烛 多谢岳父

来呀家人们听着 上挂灯结彩 下红毡铺地 与姑爷

小姐两下完婚 尊命 传相宾 来者 叩见大人

宾相叩见 你好言赞上重有赏 是伏似凤凰配

金鸡 天生一对好夫妻 今日拜天地 明年生个小弟

传新娘新郎入华堂 请拜一拜天 二拜地 三拜

祖先 四拜高堂 夫妻对拜 送入洞房 鸣锣升炮

金殿上面试才华 胸有成竹不用慌

还是赶快回店堂 明日一早见君王

不表瑞祥店堂事 要表金殿事一梳

金殿当头紫阁隆 仙人掌朝玉芙蓉 太平天子朝

南坐 五色云车降乐龙 寡人大宋仁宗自登基以来

国泰民安 风调雨顺 马放青山 此乃寡人一朝洪福也

寡人我 坐龙庭 国泰民安

全仗着 二班的 保国忠臣

今岁是 大比年 立选状元

民安年 太平春 万万之年

參拜天地结成双 夫妻双双入洞房

掛灯结彩闹盈盈 洞房花烛喜非常

厅堂贺客多热闹 酒席之上赞红粧

席散各自回家去 要表新郎观红粧

揭开盖头红心喜看姣容、啊妙吓

见娘子 貌似天仙下凡尘 好似嫦娥下月宫

我今生配得名门女 真好比 三世姻缘今相逢

真是下官有福份 凤冠霞佩报恩答

我走上前去娘子唤 呀猛想起娘亲悲满胸

母亲娘呀今日孩儿已做了高官、实指望母子团聚、同

享荣华、但未知母亲身落何处受苦、好叫我孩儿如何

寻找、吓呀娘吓

耳听悲楼打三更 想起娘亲心悲痛

娘呀娘 孩儿今日状元中 未见我娘影踪

你为儿受尽千般苦 总道今日可重逢

孩儿今日大喜日 乃有心思伴姣容

不表徐昇有来叹 要表亲娘问君郎

耳听悲楼打三更、只见官人独坐一旁、愁眉不

展、不知有何心事、吓官人 娘子 奴见你愁眉不展

未知为了何事 吓娘子呀

个人是有个人事 各人有个人事 我的心事谁人知

别人心事我不知 官人心事我略知

若要知我心内事 除非蓬岛老仙师

我云霞不呆三不痴 从小读过圣贤书

要知官人心内事 要做蓬岛老仙师

官人吓 看你终日闷迟々 定有心事不肯诉

莫非嫌我嫁粧少 害你官人少面子

你十里红粧到徐府 城里城外谁不知

莫非嫌我爹官职低 难配你状元一及第

岳父官居为吏部 朝中大臣都敬重

莫非嫌我少礼义 官人因而闷心里

你闺房熟读女儿经 样々做事称我心

莫非丫环得罪你 官人呼唤不理你

有你娘子家教严 下等个々听使唤

莫非嫌我容貌丑 有害官人状元身

夫妻岂能容貌论 何况娘子容颜富西施

这不是来那不是 为妻难猜你心头事

吓官人你这也不是那也不是、为妻我猜不着了、为

妻与你可有一比 比作何来 吓官人吓

官人你可比天上月 为妻好比月边星
 月若亮来星也明 月若暗来星也昏
 官人若有千斤担 为妻分挑五百斤
 问君若有疑难事 可将真情说我听
 娘子果然贤德女 出言吐语有才情
 我何不与他真情讲 要与娘子共商量
 吓娘子我想往事心中不安 故而独坐自叹 吓官人
 你有什么难事快与我说与知道 为妻也可与你分解愁
 愁 吓娘子我不说你乃为知道也
 那年家乡闹灾荒 我娘带我未逃荒
 只因饥饿实难熬 我娘只得卖儿郎
 将我卖到徐家门 继父扶养我长成人
 十六年光阴忽忽过 养父实言讲我听
 说我还有亲生母 如今流落在乡村
 我常为此暗伤心 未知何日见娘亲
 劝官人且把心来放 且听为妻有言讲
 官人何不差人马 打听婆父在何方
 但阮神圣来保佑 找到婆父老年苍
 为妻 情愿念佛在经堂 重修庙宇佛金装
 不表状元洞房事 要表素珍在街坊

老身张素珍为寻找亲生儿子 已经十八年了 可怜我
 吃尽千辛万苦 不能找到我儿 白天在街坊求乞 晚
 上耽搁古庙 莫非我前世作了恶事 今生罚我有儿
 难找 看来若要母子团聚 除非梦里相见了
 望儿望得二眼穿 思儿思得肝肠断
 莫非前世不修德 今世难与儿相见
 若能得见亲儿面 死在黄泉也目瞑
 不表素珍在街坊 再表瑞祥回府门
 上京赶考中头名 奉旨回家祭祖坟 下官范瑞祥
 因上京赶考 塔出考场 幸亏母亲叫我带上祖明
 珠一颗 万岁将我金殿面试 封我献宝状元 要我回家
 祭祖 左右 打道回府 啊
 奉皇上旨意出京城 要为人民审冤情
 皇上赐我一顆印 为国为民理该应
 奉旨游街坊已毕 回家祭祖不留行
 轿子行到大街上
 老爷求讨一些 呀：见老人跪地为何因
 店大人有一老婆 跪在地上求讨 快快扶他起来
 你这老婆 快快起来 见过我家大人 是老爷在上
 老妇人叩头 啊呀 为何奈时头昏目眩 老婆快快

请起 多谢大人 你这老婆为何如此悲哀、何不
对下官说 如此大人容禀

十八年前事一梳 想起往事泪汪汪
生下一对双胞胎 还有侄儿小天保

只因外出来逃荒 无钱忍痛卖儿郎

谁知一儿又被枪 失散侄儿无处找

留下老身一个人 沿街求乞过时光

老婆听你说来十分可怜、还是依下官之见你且

到我府中安身、我替你四处打听你儿子下落、母子

就可团聚了 多谢老爷好心 如此左右准备

轿子、打道回府

二乘轿子缓缓行 一路之上不留行

行来已到范府门 范老夫人思儿身

我儿中头名、老身喜十分、老身李氏、员外范忠、已

经亡故、拾了个儿子瑞祥、到也十分孝顺、上京得中了

状元游街三日、就要回家 报状元回府 出外迎接

拜见母亲 吓罢了、一旁坐下 夫人在上老身叩头

起来、儿呀、这位是谁 母亲容禀

孩儿我今日一路回门庭 路遇老人哭凄凉

孩儿问他缘由事 只为逃荒离家乡

失散孩儿无处寻 沿街求乞过光阴

此情此景儿同情 因此带他回家门

听此言来暗伤心 铁石人儿也同情

我儿果然有善心 留进老人回家门

从此我家来安居 一切由我来承担

吓你有如此好心、为娘不会怪你、我们范家今日荣

也、也靠菩萨保佑、理应积德、以保来生、不知老妈

叫什么名字 夫人我叫张素珍、山东人氏 如此张妈

到内边去姜汤沐浴、改换衣衫、就在我家养老

多谢夫人 家人领张妈到里面休息 是晓得

承蒙夫人良心好 留我家来养老

暂且住在范府内 日后慢慢把儿找

慢表张氏在范府 再表夫人把话讲

儿吓想你今日已经高中回家、为娘为你的终身担忧前日

有媒婆与你说亲、是乃金太守之女、生得才貌出众

我想正是门当户对、不知我儿意下如何 母亲孩儿想

金太守之女千金之体、定是娇生惯养、孩儿宁死娶

一个穷贫人家之女、安份守己、贤淑勤劳、以免母亲日

后淘气 吓太守之女、定是知书达理、娘是勿会淘

气个、所娘的话、明日前去说亲便了

何母子二人来高议
谈之说之好欢喜
未知说亲如何样
未知这样来成亲

双状元宝卷到此处行半本

下面还有许多情

我差媒婆去说亲。此刻未见转回程。老身李氏。员外范忠十八年前员外从店中抱来了一个婴儿。取名瑞祥今年十八岁了。秋试得中了状元。有媒婆前来做媒说金太守之女金腊生得才貌双全。与我儿同庚。我已差媒婆前去发聘。此刻未回。我真多记挂
余者

我儿已经高官中
合家大小受皇封

虽然不是我亲生
要比亲生还要亲

只为我儿婚姻事
老身时刻记心中

只望娶个贤媳妇
好与范家来传种

不表夫人思念情
再表媒婆到府中

我做媒婆全靠会说话。东边走。西边坐。媒事做成。银子

参进。夫人在上媒婆叩头者。吓媒婆不知金家如

何。吓夫人金老爷各应者。说明日是黄道吉日。叫

夫人明日发轿迎娶。好你里面沈饭。多谢夫人

里面家人听着。上挂灯结彩。下红毡铺地。发轿

范府今日多热闹。挂灯结彩喜非常。

家人上下多忙碌。行郎执事都未到。

鼓乐吹手拥轿行。高头大马骑新郎。

花轿到。快打轿上。来出轿。传相宾。来者

好言赞上重之有赏。是伏以凤凰配金鸡。双之拜天

地。新娘蚕欢。新郎勿愿意。新郎回到书房里。新

娘房里空稀。请新郎新娘入华堂。请拜。一拜天

二拜地。三拜祖先。四拜高堂。夫妻对拜。送入洞房

范府门前多热闹。官员贺喜未得忙

夫妻华堂来交拜。丫环提灯入洞房

散席各自回府门。新郎独自回书房

不表外面多热闹。再表房內女多娇

洞房之夜本是喜。因何不见新官人。奴家金腊生

金廷官居太守。爹娘不生多男。单生奴家一人。爱如

掌上明珠。有爹作主配与状元范瑞祥为妻。今日新

婚之夜。为何不见官人在房。思想起来好不烦闷人也

父母作主配范郎。总道配下好夫郎

谁知今日新婚夜。不见官人为那梳

莫非亲友尚未散。莫非他沈醉回书房

莫非嫌我爹之官职小 难配状元如意郎
左思右想难猜测 不知为了那一梳
我是太守之女有名堂 今日新婚之担独坐在闺房
耳听樵楼打三更 不免坐等到天亮
不表小姐洞房夜 再表徐府事一梳
堂前开寿筵合家喜欢颜 卑人徐国栋安人早已去世
领了一子取名徐昇上京赶考得中了头名他对我不
分孝敬这也是徐家祖上之积德今日是卑人六十
荣庆热闹非凡因何不见我儿同科状元范瑞祥到
来我不免差人前去看来便了

今日卑人寿辰期 合家大小乐欢喜
儿媳为人多贤孝 也是卑人好福气
堂前亲友都未到 不见瑞祥是何意
不免叫出小家人 去请范家来赴宴
家人我有名帖一个请范状元过府饮酒是晓得者
逢了老爷一支命 要到范府去送信
三脚两步不留行 行来已是范府门
内边小哥请了请了我逢徐老爷之命有名帖呈
上好待我交与老爷老爷有读何事徐老爷
有名帖一个请老爷观看待我看来

我把名帖看明白 徐府相请为何来
原来伯父寿日到 六十荣庆寿筵开
要我过府把沈欲 一片诚情难推且
不免叫出张妈 速送寿礼到徐府
内边张妈之那里来了老爷有何吩咐张妈之今日
徐老爷六十荣庆叫你夫人准备寿礼送往徐府而去
悲是老爷晓得者

状元老爷良心好 想救我素珍命一条
看来今生难补报 来生犬马把恩报
今日老爷送寿礼 上接报与夫人晓

本乃是新婚夫妻多恩爱 今我独坐空房冷如冰
我几次前去盘问他 官人他不肯说出真情来
越思越想心烦闷 再表素珍上接门
叩见夫人 罢了你到来何事 奉奉老爷之命叫你夫人
备办寿礼送到徐府而去 知道了张妈之你去到厨房
做一盘寿桃你亲自送去要叫我三条未知乃三条第一
条路上不许行留第二条不许偷吃寿桃第三条你要
快去快回是老爷知道即忙行去去行来到
徐府门首叩门上大叔我奉范老爷之命给你家老
爷送寿桃而来快有读是老婆子见过老爷

是贫妇见过老爷徐罢了一旁请坐悲谢老爷愿老爷
寿比南山不老松福如东海永长春徐家人赏老姆之
银子十两悲多谢老爷了

一见老爷多慈祥

好像乃里见过面

素珍暗来思想

猛想起十八年前事一梳

我在街坊卖儿郎

忽然来了一先生

他赐我银子五十两

抱走小儿去扶养

临别留下鞋一只

日后去找小儿郎

未知先生可可是他

我上前去细问端祥

先生我想动问一声徐姆之动问不敢但说无妨

悲吓先生你一身作何事业徐卑人一向教书为业只有一

子并非卑人所生但我儿虽非亲生可比亲生还要

好对我十分孝顺从小勤奋好学如今得中了状元

荣归故里悲呀听此言来果然不错先生我老身

要再问一声徐姆之你尽管直言讲来悲吓先生未知

你令郎是这样拾来的徐吓姆之说来话长也

十八年前事一梳

往事历历记心上

那年山东闹灾荒

母子四人来逃荒

宿店耽搁无银两

无奈街坊卖儿郎

我老汉无儿心烦闷

街坊之上去游荡

只见妇人哭悲伤

送他银子买儿郎

扶养小儿十八年

如今得中状元郎

听他一番哀情话

果然不错半毫分

如今儿子身荣贵

不由老身心欢畅

不如对他真情讲

未知他心如何样

如此说来先生你还可以认得我老身吗徐吓姆之此话

从何说起悲先生我就是十八年前在街坊卖儿的妇

人张素珍山东历城县母子三人和侄儿天保外出逃

荒在客店安身只因口食难度在街坊卖儿不遇

你先生好人赠我银子五十两将我儿抱去扶养

还留下一只小鞋叫我好之藏着日后鞋子成对也好母

子相认徐吓姆之我来问你小鞋可在悲鞋子压在身边

请先生观看徐待我看来果然不错请问姆之你为何

在范府为外悲呀先生呀

自从那日别先生

回转客店遭祸殃

满怀悲痛哭断肠

痛惜小儿被人抢

屋漏偏逢连夜雨

店中起了大火烧

侄儿失散无处找

抛头露面来流浪

日间求乞在街坊

后来栖身在古庙

奉堂一死赴黄梁

只为三个小儿郎

若得孩儿见一面 虽死黄泉也心安
听他一番心酸话 铁石人儿也悲伤
既然我儿亲母到 卑人也可把心放
让他母子来相会 骨肉团聚理应当
吓妈之所保之言果然不错、乃你因何为在范府为什
先生吓

我乃日街坊来求讨 路遇轿内状元郎
他见老身多可怜 留进他府来养老
我见老爷良心好 服侍夫人在闺房
今日奉了老爷命 特到府上送寿桃

如此说来你是我儿生母、快请上坐、多谢先生、蒙
先生厚爱、扶着我儿成人、老身我来世做牛做马再
报先生大恩、夫人何必客气、你的儿子也是我的儿子
待我叫他出来、与你母子相会、内边我儿那里、
爹又叫上前问分晓、爹在上孩儿拜揖、儿吓罢了
谢爹、儿吓当初为父与你说过、你有个亲生母亲
今日你的生母到了、快上前相认、母亲在那里、
乃边可是我儿徐昇、母亲、我儿亲娘、儿吓
十八年来梦一场 总道难以见亲生
谁知我儿已长大 今日相见喜非常

只要我儿来相见 娘死九泉也无妨
娘呀娘自从孩儿人长大 爹与儿亲口讲
说道孩儿非亲生 说我还有亲生娘
为了逃荒走他乡 抛下孩儿实凄凉
孩儿知道娘亲后 暗中流泪哭断肠
孩儿京都地名扬 到处打听我亲娘
总道难见亲娘面 谁知今日见亲娘
母子团聚骨肉亲 可比枯木再逢春
吓母亲你为儿吃尽了千辛万苦、今日孩儿高中了、你
就在府中同享荣华、夫人我儿言之有理、且到内
边去改换衣衫、先生且慢、老身多蒙范状元相救
我理应当说明才是、天色不早、我该回去了、
孩儿派人送你回去、明日备轿子相接、难得我儿这
样孝心、家人、小心送夫人回范府、是、小人晓
得者

今日母子喜相逢 不由老身心欢怀
多蒙苍天来保佑 母子相见徐府中
还有小儿一个人 未知何日来相逢
不表张妈路上行 再表腊娇在房中
张妈徐府去送礼、此刻还未回府门、奴家金腊娇

配夫范瑞祥。今日徐老爷寿日。我差张妈去送寿桃。到此刻还未回来。真个气死我也。^悲差我送寿礼。急急转回程。夫人在上老身回来了。^悲张妈。你为何这长时。间才得回来。^悲夫人因老身年老体弱。行走较慢。望夫人原谅。^悲哼。年老体弱。行走较慢。你是来做佣人的。理应要听我使唤。要不是我家老爷收留你进府。你就还是一个街上的老乞婆。快去拿参汤来与我吃。^悲是。看来这年轻夫人。到是个薄情之人也。

老爷相救有好心。夫人却是薄情人。
如此刻薄又势利。难怪老爷勿中意。

手捧参汤进房去。^悲腊娇一见便生气。

张妈。你把参汤拿得高点。^悲是。啊。请介烫个。你莫非想把舌头烫伤不成。腊娇说着。把一碗参汤倒在张妈的脸上。^悲啊。痛死我也。

一碗参汤倒脸上。^悲杀时疼痛实难当。

本堂上前把礼许。^悲难为老爷好心人。

若是老爷来知道。^悲夫妻一定要争吵。

我忍气暂且下楼去。^悲去到房中包扎好。

不表张妈情由事。^悲再表老夫人在厅堂。

仙子已成家。我老太婆享荣华。老身李氏十八年前。

拾得一个儿子。养大成人。考中了头名状元。不伊讨了个老母。也好给徐范家传种接代。我老婆子真当开心。杀者。

菩萨祖宗真多灵。拾来儿子称我心。

他对我娘真孝顺。问冷问暖常关心。

我今还要拜观音。^悲要表张妈暗伤心。

老夫人请用参汤。^悲有劳张妈了。呀。张妈。你脸上。

因何浇得这等模样。^悲因老身不小心被汤水泡伤。

张妈。你年纪大了。以后重活叫了环们去做。^悲是。是。

谢老夫人。^悲张妈。因何流泪。^悲我没有哭。张妈。你。

手中拿的是什么。^悲吓是我儿的一只鞋子。^悲那。

儿现在何处。^悲吓老夫人呀。

十八年前闹灾荒。无奈外出逃荒。

口食难度卖儿郎。另儿被人抱去无下落。

苦之想儿十八年。未知我儿在何方。

听他言来暗思付。^悲莫非我儿他亲生。

是假是真不明白。看过小鞋便知祥。

张妈。你把小鞋拿来我看。^悲请老夫人观看。^悲待我看。

来。喔。唷。点。不差。果是孩儿的亲生母亲了。张妈。

到如今我也不来满你了。范瑞祥就是你的亲生儿。

子。就把详细情况说与地听。^悲张妈一听惊喜万分。

多谢老夫人收留小儿培养成人使老身永生难忘
 张妈你我都自家人了不必客气待我出瑞祥
 母子相会内边我儿那里来了母亲在上孩儿拜见
 罢了儿呀快来见过你的亲生母亲便把抱来扶养
 之事说了一遍然后拿出鞋子相对如此不孝儿拜
 见亲娘吓我那苦命的娘亲吓吓亲娘呀
 瑞祥我的亲儿吓吓儿吓
 十八年寻儿苦连天 谁知重逢在今天
 朝思暮想见儿面 悲喜交加话不断
 不知我娘如何处存
 自从你孩儿离娘身 我身边无有一亲人
 日间沿街来求讨 夜来古庙暂安身
 只要能见我儿面 为娘一死亦甘心
 听娘一番心酸话 不由热泪涌胸前
 娘亲受尽千般苦 我做状元亦枉然
 都是孩儿不孝顺 害娘吃苦到今天
 娘吓娘你吃了苦今翻身 如今方为人上人今后
 同享天伦乐了环给老夫人改换衣衫 娘今日我
 亲生母亲在此望娘不要见外常言道生母还是
 养母大二个母亲都一样 勿要客气了环请少夫人

下楼是请少夫人下楼 婆在上媳妇拜见 起来
 官人请来见礼 少礼快去见过我亲生母亲 吓官
 人他是个人张妈 媳妇张妈就是状元的亲生之母
 快见礼 啊吓早勿对者我道是个人把他脸面泡伤
 叫我如何去见得 吓大胆贱人哪
 骂声贱人理不当 虐待婆之罚难容
 自认是个官家女 三重四德少礼义
 一封休书退娘门 叫你贱人无面皮
 吓官人都是妾身不好 如若我早知如此就悔不当
 初婆媳我我给你跪下了
 婆之吓 前番之事媳妇错 如此对待你婆之
 都是爹娘宠容我 害你婆之人难做
 三重四德全不懂 难怪官人不理我
 只得跪地求婆之 婆之你官人前面话好话
 你且起来 虽然你不知道是你婆之 但对待个人
 也不能如此 是多谢婆之 媳妇牢记在心是了 吓
 儿吓既然媳妇认错改过自新你就原谅他吧 吓孩
 儿尊命 看在母亲面上就饶了你吧 下次不可 多谢
 官人 吓子哈今喜母子相会但倚里面吃团圆沈饭
 起者 多谢母亲了

十八年来娘受苦 今日母子重相逢
明日上朝见君皇 娘的苦楚告皇上
挽扶娘亲进内堂 合家团聚喜非常

回到此处行三回 大聚团圆下卷云

昨日母子重相会 今日接母回家来 下官徐昇十八
年前母子分离 昨日父子寿日 范府差母亲送寿
桃而来 多蒙养父好心 使我们母子重逢 可怜娘
弟为了我受尽了千辛万苦 今日母子团聚 理应
接我娘亲回府 同享荣华也

多蒙上苍来保佑 十八年母子重相会

今日备轿去范府 接回娘亲奉高堂

三乘轿子缓步行 二班衙役紧跟

开锣喝道多热闹 不觉来到范府门

门公叫着我徐老爷要见范状元 请少待 后

老爷外面徐大人要见 吩咐大开正门 出外迎接 徐

大人请 范大人请 不知徐大人到府有何贵事

范大人吓 请你叫出我的母亲 下官要接他回府

徐大人你真的说笑话了 我的府中乃会有你的

娘亲 范大人你府中的张妈 就是我的娘亲

多蒙大人留进府中 今日一来何大人叩谢留母之恩
二来接我十八年前失散的娘亲回府 徐大人你十八年
前失散的母亲乃是我的亲娘 乃里会是你大人的
母亲 何况我们已是母子相认了 范大人当初我
母亲是你留进 我应当知恩重报 如今你扣押我娘
是何道理 徐大人他分明是我的母亲 你今来我
府中无理取闹 你莫非心怀不良 要拆散我们母
子不成 真个宣有此理 范瑞祥你身为状元 又
是朝中忠臣 竟干抢母夺娘 我与你去见巡按大
人评理 难道我怕你不成 左右起道巡按府

可恨徐昇无理心 抢夺我娘不该应

二人共去到巡按府 巡按跟前把理评

不表二人路来行 要表巡按坐公庭

眼前皆赤子 头上有青天 下官李天保 只因那年

家乡连遭灾荒 父母饿死 我多蒙婢娘收养

带同二个堂弟一同逃荒他乡 谁知不测风云 堂弟

被人抢走 另一堂弟卖与别人 我与婢娘耽搁在客

店 不料店中失火 与婢娘失散 我一路流浪来到

京邦 正逢着罗王爷前来游街 见我喜爱 抬我

在他府入赘为婿。万岁面试封我^为二省巡按。我四处找
寻打听婢娘下落。并无消息。吓婢娘吓婢娘。未知
你身在何方。玉叫天天挂念人也。

当年家乡遭灾荒

四人出外来逃荒

二个堂弟无踪影

大火分散了婢娘身

灵蒙王爷招爱我

万岁封我巡按治万民

我几次派人去寻访

未知婢娘在何方

慢表天保在思念

要表二个状元郎

来此公堂待我击鼓

吓！店泰大人有人击鼓

参见巡按大人

吓！店泰大人有人击鼓

位驾到所告何人

我是吓告

二位状元公既然都是吓告

我是吓告

个问来徐大人我看还是你先说

巡按大人容禀

家住山东历城县

李家庄上我家门

我母名叫张素珍

家乡遭灾逃出门

只因肚中受饥寒

将我卖到徐家门

昨日继父大寿日

特将请帖到范府

娘在范家做佣人

代他送礼到我们

继父与他来相认

母子相逢喜欢胸

今日轿子接娘亲

谁知状元无理性

扣押我娘不放行

还说是他亲娘亲

有意与我寻开心

还望大人判断明

如此说来张素珍就是你的母亲。范状元这就是

你的不对了。既是徐状元的母亲理应奉送归地

大人你不要听他胡说。难道我天子门生会做此事

既然如此你也说你的道理

下官出生山东城

历城县内李家村

我母三字张素珍

家乡遇荒逃出门

这个我早已说过大人你不要听他胡说

讲下去

只因难已过光阴

招商店内暂安身

乃日范员外收房细

员外将我抢回门

我在范家十八春

养父将我养成人

乃日赶考中状元

路遇老人哭凄惨

跪倒我的轿面前

我霎时眼花头发昏

我见老人实可怜

将他吊进在府门

既然吊进你府门

后来何故母子认

只因思儿娘悲伤

对着小鞋暗泪淋

养母再三来盘问

我娘流泪诉哀情

原来是我亲生母 因此后堂母子认

如此说来你也是张素珍的亲生，你将鞋子拿来我

看。大人我也有一只鞋子。二位不必争论，且到内堂

忽忽候奉部判断。多谢大人吓呀且住，莫非二个状

元就是我的二个双胞胎的堂弟不成，这……这又太巧合了

听他言来心暗喜 原来婢娘在此地

二位状元是堂弟 争奇亲娘我心欢喜

婢娘果然好福气 有三个孝顺状元子

我把婢娘接府里 祥细情况问之伊

不借既然后娘已到，我不免去接他前来，左右备轿

一乘去范府接张老夫人到来，是乃衙役不到一刻辰光

便将张夫人接到，报张老夫人接到，打轿上来，是

大人在上民妇叩见，老夫人快夸起，不知大人叫我

民妇到来何事，老夫人今日二位状元前来公堂告状，都

道你是他的亲生母亲，下官难以判断，所以请你到来，你

去认来，那个是你的亲生儿子，店桌大人二个都是民

妇的亲生儿子，老夫人既然二个状元都是你的亲生

儿子，你又何故会落在他的府中，大人容禀

老身名叫张素珍 家住山东历城县

外出逃荒住客店 小儿饥饿哭连声

为活命忍痛小儿卖 又小儿被人抢

失散侄儿小天保 到处找来无寻觅

二儿今日来相逢 多谢天上菩萨保

吓吓听他言来果然是婢娘来了，婢娘在上受侄儿一

拜，吓吓你口称婢娘到是何人，婢娘我是天保，天保

原来你是天保，婢娘，侄儿，婢娘呀……

跪在地上婢娘叫 且听天保说端祥

自从那日失散后 我一路求乞到京邦

幸亏王爷来招爱 他府入赘作悞怜

去到皇上处奏本 皇上封我为巡按

四处寻找你婢娘 毫无音讯暗悲伤

总道今世无希望 谁知相逢在今朝

吓住儿常言道皇天不费负苦心人，今日总标我们会

家团圆了，真个谢天谢地，未知我二儿人在何处，堂

弟都在后堂，待我叫他们出来，二位状元公请，大人

不知可有明断，你母亲在此快去相见，母亲，心

呀你们二人不必争论，你们二人都是我的亲生儿子

你们是双胞胎兄弟，今日你二在公堂之上夺母，都是

对娘的一片孝心，这位巡按大人是你二弟的堂兄，就

是为娘在十八年前失散的侄子，你们快去见过

堂兄^元孩儿尊命堂兄^得二位堂弟^得吓婢娘今日我
们合家团聚真是菩萨保佑谢天谢地等明日早
朝我与堂弟奏明圣上回家祭祖^得佳儿言之有理
如此佳儿内备沈筵唱团圞沈热闹一番便了

后堂摆沈复热闹

母子相逢喜非常

悲欢离合乐淘淘

三人斛沈敬高堂

四人谈到黄昏后

各自回府写表章

青天红日东升起

车马轿子上早朝

三呼万岁金階上

跪在旦膝奏君皇

臣李天保有本启奏

爱卿奏来^得启奏万岁

臣因那年家乡闹荒由婢娘张素珍带堂弟出外逃

荒后来四人失散婢娘受尽了千辛万苦今日才得

团圞二个堂弟徐昇与范瑞祥已与婢娘母子相认

望万岁定夺^得爱卿所奏寡人俱已明白张素珍

为人可佳贤德无双封为重义夫人钦赐凤冠霞佩

三位爱卿忠孝节义官封二品徐国栋养子有功

有仁义之心官封七品侍郎李氏扶养范范卿有功

封为真节夫人王云霞封为贤德夫人金腊娇

为人势利刻薄本堂议罪难为他有心悔改从宽

发落既往不究封为一品夫人各赐凤冠霞佩奉旨

回家祭祖事毕回京奉职钦旨谢恩

万岁万万岁

三人谢恩出朝庭

文武官员齐送行

鸣锣喝道多热闹

威风凛凛往前走

一路行程不留行

不觉已到府墙门

母亲在上孩儿叩见

孩儿拜见爹^得孩儿吓

罢了你今日早朝归来未知万岁是否准奏^得爹

万岁钦赐官带官封你七品侍郎^得送爹穿大起来

吓母亲万岁钦赐你凤冠霞佩^得送母亲穿大起来

孩儿^得做人总要良心好^得孩儿比爹生还要好

今后我要在后堂日^得吟经念佛礼拜观音菩萨

婢娘^得蒙皇上恩赐合家团聚共享富贵^得二个儿

子各生一子一女接续后代官登及第父子同朝为

官李氏范氏坚心修道斋僧布施广积善德

劝化世人功德无量寿主百岁无疾而终玉皇一

道命金童玉女接引西方位列仙班

双状元宝卷前后二本四回恩怨分明孝义双全

三桂芬芳金玉满堂大序团圞拜谢皇恩

双状元宝卷听完全

古镜重磨照大千

天保忠心多孝道

官为巡按立朝纲

